慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	聴衆の聴く力に合わせたクラシックピアノコンサートの曲目策定
Sub Title	Choose of musics played in classical music piano concert considering audiences' ability to listen to classical musics
Author	大山, 紗季(Ohyama, Saki) 石戸, 奈々子(Ishido, Nanako)
Publisher	慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科
Publication year	2020
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2020年度メディアデザイン学 第834号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40001001-00002020-0834

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

修士論文 2020年度

聴衆の聴く力に合わせた
クラシックピアノコンサートの曲目策定

慶應義塾大学
大学院メディアデザイン研究科

大山　紗季

本論文は慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科に
修士 (メディアデザイン学) 授与の要件として提出した修士論文である。

大山　紗季

研究指導コミッティ：

石戸 奈々子 教授　(主指導教員)
加藤 朗 教授　(副指導教員)

論文審査委員会：

石戸 奈々子 教授　(主査)
加藤 朗 教授　(副査)
山岡 潤一 専任講師　(副査)

修士論文 2020 年度

聴衆の聴く力に合わせた
クラシックピアノコンサートの曲目策定

カテゴリ：デザイン

論文要旨

クラシック音楽のコンサートは眠くなる、堅苦しい、敷居が高い、などの問題から、新規のファンを獲得することが難しいという現状がある。その原因のひとつはコンサートで演奏される曲目にあるのではないだろうか。音楽を学んでおらず、和声、曲の構造、音感、作曲家や時代背景の知識がなく、これからクラシック音楽を趣味にしたい新規ファン層と既存ファン層とは”聴く力”が異なると考えた。そこで上述のようなクラシック音楽初心者に向け、どのようなピアノ曲であれば演奏を聴くことを楽しみ、クラシック音楽のファンになってもらうことができるのか、YouTubeLIVE でコンサートを行い、クラシック音楽初心者に向けたプレイリストを作成し、初心者と演奏家の観点から曲に対する意識の差を検討した。その結果クラシック音楽の演奏者が初心者向けと考える曲目を、初心者はクラシックらしくて退屈であると捉えていることが分かった。

キーワード：

クラシック音楽, クラシック音楽コンサート, 初心者, ピアノ曲

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科

大山　紗季

Abstract of Master's Thesis of Academic Year 2020

Choose of Musics Played in Classical Music Piano Concert Considering Audiences' Ability to Listen to Classical Musics

Category: Design

Summary

Classical musics were thought that it was difficult to acquire new audiences because it made audiences sleepy, was thought to be formal and was thought to be difficult to start to listening to. I thought one reason was the choose of musics played in the concert. I suggested that this was because new classical music fans who thought they want to start to listen to classical musics had studied less musics and had little knowledge of harmony, structure of musics, absolute pitch, composer or background, in other words, were lack of the "ability to listen to classical musics". Here, I made playlists for beginners, carried out concert on YouTube LIVE and considered the difference between how beginners felt when they listened to musics and how players felt when they played. This showed out that musics players thought was for beginners were boring to beginners.

Keywords:

classical music, classical music concert, beginners, piano music

Keio University Graduate School of Media Design

Saki Ohyama

目　　次

第 1 章　序論 **1**
1.1. 日本におけるクラシック音楽 1
1.2. 研究課題 2
1.3. 論文構成 3

第 2 章　関連研究 **4**
2.1. クラシック音楽コンサートに訪れる人々 4
2.1.1　客層と参加意図 4
2.1.2　クラシック音楽コンサートの多様化 5
2.1.3　聴いたことのある曲 6
2.1.4　クラシック音楽コンサートで演奏される曲 6

第 3 章　予備実験 **9**
3.1. Web classic concert 9
3.1.1　コンセプト 10
3.1.2　概要 10
3.1.3　演奏会当日の流れ 12
3.1.4　アンケート結果と考察 12
3.1.5　考察まとめ 19
3.1.6　課題 20

第 4 章　デザイン **23**
4.1. クラシック音楽初心者のためのプレイリスト 23
4.1.1　コンセプト 23

4.1.2 プレイリスト ver1 作成 24
4.1.3 楽曲解説と選択理由 24
4.2. クラシック音楽初心者によるプレイリスト ver1 視聴 28
4.2.1 概要 28
4.2.2 チェックリスト作成 28
4.3. プレイリスト観賞会 29
4.3.1 概要 29
4.3.2 目的 29
4.3.3 考察 33
4.3.4 反省・課題 34
4.3.5 チェックリスト結果と考察 34
4.3.6 各曲の感想 37
4.3.7 視聴後アンケート結果と考察 43
4.3.8 考察まとめ 48
4.3.9 プレイリスト ver2 作成 51
4.3.10 楽曲解説と選択理由 52
4.3.11 チェックリスト結果と考察 55
4.3.12 視聴後アンケート結果と考察 60
4.3.13 プレイリスト ver2 考察 62

第 5 章 演奏者から見た演奏会 64
5.1. ピアニストにインタビュー 64
5.1.1 概要 64
5.1.2 プレイリスト ver1 に関するインタビュー 66
5.1.3 プレイリスト ver1 に関するインタビューの考察 69
5.1.4 演奏会に関するインタビュー 70
5.1.5 演奏会に関するインタビューの考察 78

第 6 章 考察 80
6.1. クラシック音楽初心者と演奏者のすれ違い 80

第 7 章　結論 **82**
7.1. 予備実験とデザインの成果 82
7.1.1　予備実験 82
7.1.2　プレイリストとインタビュー 82
7.2. 今後の展望と課題 84

謝辞 **85**

参考文献 **86**

付録 **89**
A.　Web Classic Concert パンフレット 89
B.　プレイリスト　チェックリスト 89

図　目　次

1.1　2011〜2016 年の動員数から考える、クラシックコンサートのこれからより引用 1

2.1　誰がクラシックコンサートに行くのか: 東京・新潟・鹿児島のコンサート会場におけるアンケート調査をもとに p64 より引用 . . 4
2.2　クラシック演奏会での選曲傾向　1984 年と 2004 年の比較　中間発表 p120 より引用 7

3.1　演奏者 1 11
3.2　演奏者 2 11
3.3　年齢層グラフ 13
3.4　職業グラフ 13
3.5　予習回数グラフ 14
3.6　BGM としての人気曲 14
3.7　リアルの演奏会へのきっかけ 15
3.8　web クラシックコンサートへの再度参加希望度 16
3.9　もう一度視聴したい曲 17
3.10　カメラアングルについての希望 18
3.11　筆者の発表会の際の写真 18
3.12　接続方法図解 21
3.13　コメント欄 22

4.1　観賞会前の様子 29
4.2　欠伸をする聴衆 32

4.3 飽きた時間 (ソナタ k9 L413) 35
4.4 飽きた時間の分布 (ロンド kv485) 35
4.5 飽きた時間の分布 (ピアノソナタ 2 番第 1 楽章) 36
4.6 飽きた時間の分布 (楽興の時 第 4 番) 36
4.7 飽きた時間の分布 (スケルツォ第 2 番) 36
4.8 飽きた時間の分布 (3 つの無言歌作品 17 番第 3 番) 36
4.9 飽きた時間の分布 (ピアノソナタ 14 番月光第 3 楽章) 37
4.10 年齢層 2 44
4.11 睡眠時間 44
4.12 演奏経験 45
4.13 イメージの変化 45
4.14 普段聴いている曲の分数 46
4.15 今後も今回のプレイリストを使用するか 47
4.16 段階的な 6 つのソナチネ第 4 番第 1 楽章の曲の特徴 52
4.17 フランス組曲 5 番の曲の特徴 53
4.18 ソナタ第 50 番第 1 楽章の曲の特徴 53
4.19 ワルツ第 16 番の曲の特徴 54
4.20 子供の情景より「見知らぬ国」の特徴 55
4.21 2 つの演奏会用練習曲より小人の踊りの特徴 55
4.22 年齢層 3 60
4.23 睡眠時間 2 60
4.24 イメージの変化 2 61
4.25 今後もプレイリストを使用するか 2 62
4.26 別のプレイリスト 62

5.1 インタビュー 65

6.1 プレイリスト ver1 から見る両者のすれ違いまとめ 81

表　目　次

4.1　プレイリスト ver1 一覧 24
4.2　ソナタ k9 L413　感想抜粋 37
4.3　ロンド kv485　感想抜粋 38
4.4　ピアノソナタ 2 番第 1 楽章　感想抜粋 39
4.5　楽興の時 第 4 番　感想抜粋 40
4.6　スケルツォ第 2 番　感想抜粋 41
4.7　3 つの無言歌作品 17 番第 3 番　感想抜粋 42
4.8　ピアノソナタ 14 番月光第 3 楽章　感想抜粋 43
4.9　プレイリスト ver2 一覧 51
4.10　段階的な 6 つのソナチネ第 4 番第 1 楽章　感想 56
4.11　フランス組曲 5 番　感想 57
4.12　ソナタ第 50 番第 1 楽章　感想 57
4.13　ワルツ第 16 番　感想 58
4.14　子供の情景より「見知らぬ国」　感想 58
4.15　2 つの演奏会用練習曲より小人の踊り　感想 59

第 1 章
序　　論

1.1. 日本におけるクラシック音楽

日本におけるクラシック音楽は眠くなる、堅苦しい、敷居が高い、などと思われている問題 [1] から、新規のファンを獲得し、コンサートに動員することが難しいという現状がある。
実際に 2011 年から 2016 年のポップスのコンサートとクラシック音楽のコンサートとの動員者数の差を調べてみると、2011 年の段階でポップスは 1992 万人、クラシックは 487 万人、2016 年ではポップスは大きく成長し 3446 万人、クラシックは横ばいを続け、637 万人。ポップスのコンサートは 2011 年から 2016 年の 5 年の間に 1,454 万人増加しているが、クラシック音楽のコンサートは 150 万人増加に留まっており、動員数は伸び悩んでいることがわかった。[2]

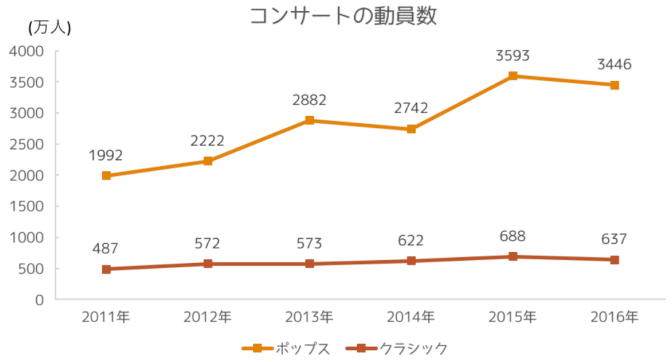


図 1.1　2011～2016 年の動員数から考える、クラシックコンサートのこれからより引用

1.2. 研究課題

クラシック音楽を普段自ら進んで聴かない人や、クラシック音楽のコンサートに行かない人にとってクラシック音楽のどのような点が、堅苦しい、敷居が高いなどのとっつきにくさを感じさせているのだろうか？私の場合、幼い頃にハノンやバイエルなどからピアノ練習をし始め、L.v ベートーヴェンのエリーゼのためにや A. モーツァルトのソナチネ、J.S バッハのインヴェンション、ショパンの前奏曲、練習曲などの演奏経験を経て現在に至っている。ほとんど全ての演奏者がピアノを始めたての時は、演奏する事が簡単な曲から練習を始めただろう。演奏者は練習をしていく過程の中でクラシック音楽を演奏する力だけではなく、”聴く力”が共に育っており、クラシック音楽を聴いても眠くなったり、堅苦しいと感じたりしない。演奏者と違ってクラシック音楽を普段あまり聴かない人はクラシック音楽を”聴く力”がまだ育っていないため、堅苦しさやとっつきにくさを感じているのではないか、それによって既存ファンや演奏者とクラシック音楽をあまり聴かない人との間の壁が厚くなってしまっているのではないか。
「クラッシックの音楽を演奏しよう！」と思った時は、自分の演奏レベルに合わせて、簡単な曲や弾いておいた方が良い曲などの分類がされているが、「クラシックの音楽を聴いてみよう！」と思った時は、自分の聴く力に合わせて簡単な曲などを選びたいと考えても、レベル分けはされていないため、クラシック音楽を普段あまり聴かない人がもし興味を持ったとしても、どの曲を聴いたら良いのか、行きたいと思ったコンサートで演奏される曲は自分のクラシックの知識や聴く力で楽しむ事ができるのかわからない。つまり演奏会で演奏される曲目がクラシック音楽を普段聴かない人にとってハードルが高くなっている要因の１つである可能性があると考えた。
したがって”聴く力”がまだ育っていない人に合わせた曲を取り入れたクラシック音楽のコンサートを開催することができれば、とっつきにくさを軽減させ、クラシック音楽の新規ファンを獲得することの足がかりになるのではないかと考えた。
本論文ではクラシック音楽を普段あまり聴かない人が、聴きやすいと感じる曲目の傾向を探るとともに、演奏者は実際にコンサートで演奏する曲をどのように決めているのか、クラシック音楽を普段あまり聴かない人と演奏者それぞれのコン

サートの曲目に対する意識の違いを調査した。また、クラシック音楽と一括りに言っても、オーケストラやオペラ、室内楽など様々なジャンルがあるが、今回はピアノ曲にのみに焦点を当て、クラシック音楽を自ら進んで聴かない人や、クラシック音楽に親しみを持っていない人を「クラシック音楽初心者」と称することとする。

1.3. 論文構成

本論文は第 1 章「序論」で述べた研究課題を元に第 2 章「関連研究」ではクラシック音楽のコンサート来場者の傾向、近年コンサートで演奏されているピアノ曲の傾向、クラシック音楽への単純接触を用いたアプローチ等の先行研究を示し、第 3 章「予備実験」ではクラシック音楽初心者をターゲットに YouTubeLIVE を行った。事前にコンサートで演奏される何曲かを予習として視聴してもらい、コンサートで予習した曲としていない曲を聴いた時の差を調査し、クラシック音楽初心者に向けた曲目デザインをするための予備実験について考察した。
第 4 章「デザイン」ではクラシック音楽初心者のためのクラシックピアノ曲のプレイリスト ver1,2 を作成し、クラシック音楽初心者に視聴、アンケートに回答してもらった。また、プレイリスト ver1 ではそのうちの数名を集め観賞会も行い、視聴中の様子を観察し、クラシック音楽初心者向けの曲目の傾向を分析した。
第 5 章「演奏者から見たコンサート」ではピアニストと対談を行い、デザインしたプレイリスト ver1 についてや、コンサートでの曲の選択方法等を調査した。
第 6 章「考察」では第 4 章と第 5 章での結果をもとにクラシック音楽初心者と演奏者の曲に対する意識の差を考察した。
第 7 章「結論」では本研究の結論、今後の展望と課題について述べた。

第 2 章
関 連 研 究

2.1. クラシック音楽コンサートに訪れる人々

2.1.1 客層と参加意図

「誰がクラシックコンサートに行くのか: 東京・新潟・鹿児島のコンサート会場におけるアンケート調査をもとに」の論文によると、コンサートの参加者は都心部に住む高年齢で高階層出身かつ高学歴者の常連を中心に構成されていることが判明している。[3]

図表 3　地域別・性別にみた年齢層の構成　(%)

	東　京			新　潟			鹿児島		
	男	女	全体	男	女	全体	男	女	全体
20 才代以下	10.9	21.7	16.9	2.7	8.4	6.0	7.4	11.0	9.8
30 才代	15.4	21.4	18.7	6.7	14.2	10.9	1.2	6.9	5.1
40 才代	16.7	17.1	16.9	19.6	19.6	19.6	4.9	20.2	15.4
50 才代	22.0	25.2	23.8	22.7	28.0	25.7	37.0	27.7	30.7
60 才代	25.9	12.1	18.3	34.1	23.5	28.1	37.0	23.7	28.0
70 才代以上	9.0	2.4	5.4	14.1	6.3	9.7	12.3	10.4	11.0
合　計	100	100	100	100	100	100	100	100	100

図 2.1 誰がクラシックコンサートに行くのか: 東京・新潟・鹿児島のコンサート会場におけるアンケート調査をもとに p64 より引用

また、2016 年 12 月 13 日（土）18 時開演（サントリーホール）2016 年 12 月 4 日（日）14 時開演（ミューザ川崎シンフォニーホール）の来場年齢層を見ると、サントリーホールでは 50 代、60 代。ミューザ川崎では 50 代、60 代、70 代がメイ

ンのコンサート参加者だった。（オーケストラのマーケティング・リサーチと芸術団体のための戦略プラン構築、およびオーケストラのためのマーケティング・ハンドブック制作事業より抜粋 [4]）以上のことからクラシック音楽コンサートの参加者は高齢者がメインであることがわかった。

2.1.2 クラシック音楽コンサートの多様化

一般的にクラシック音楽のコンサートといえば演奏者が舞台の上に立って聴衆に自分の演奏を聴かせる、一方向のコンサートだが、近年では様々な種類のコンサートがり、あまりクラシックを聴かない、クラシックに興味はあるけれど難しくてよくわからない、という人向けにレクチャーコンサートと呼ばれる以下のような内容のコンサートもある。

- 1 生演奏 (ライブ) において、演奏者自身がレクチャーをする。
- 2 生演奏 (ライブ) において、演奏者とは別に、司会者や専門家がレクチャーをする。
- 3 生演奏 (ライブ) において、演奏者と司会者または専門家が会話しながらレクチャーする。
- 4 聴衆を前に、CD や DVD、VTR などで音楽を鳴らしたり映像や文字を見せ、そのレクチャーをする。部分的に生演奏が入る場合と全く入らない場合がある。
- 5 テレビやラジオ番組で音楽や映像 (文字も含む) を流し、そのレクチャーをする。例として NHK のテレビ番組「 N 響アワー」、 ラジオ番組「名曲のたのしみ」などがある。テレビ朝日「題名のない音楽会」は、3 と 5 に該当する。

(レクチャーコンサートとその「語り」についての一考察-アートマネジメントの実戦から-p54 より引用) [5]

また、2020 年に入り COVID19 の影響からコンサートを開催することが難しい状況、外出を控えなければならない状況になり、オーケストラ団体や演奏家個人が Web 上でコンサートの様子を生配信したり、過去のコンサートの映像を流すなどの活動を始め、聴衆は外に出かけることなく自宅で手軽にクラシックコンサートを聴くことができるようになった。新国立劇場も 2020 年 4 月 10 日より一定期間「巣ごもりシアター」と題して過去公演の動画を無料配信する活動を行っていたり、先述したレクチャーコンサートもオンラインで行われるようになり、新日本フィルハーモニー交響楽団が、オンライン会議システム ZOOM を使用したレクチャー「NJP クラシックお楽しみ塾」を 2020 年 5 月 31 日より開始する（クラシカジャパンより抜粋 [6]）などコンサートのあり方、楽しみ方が変容した。

2.1.3 聴いたことのある曲

近年では都庁などで通りすがりの人が演奏するストリートピアノが設置されることが多く、街中でクラシックピアノ曲を耳にする機会も多くなっているが、そのような通りすがりに少し聴いたことのあるような断片的な楽曲の記憶は、その後クラシック音楽を聴く上で影響を及ぼすのか。「単純接触効果を応用した earcon によるクラシック音楽への好意度向上手段に関する研究」では、クラシック音楽を加工した earcon(1 回 3 秒程度）と呼ばれる音楽の断片を用いて、それを聴衆に単純接触させる行為によって楽曲の中に知っている部分を複数箇所作った場合、一曲の長さが 20 分近くあるような長いクラシック音楽であっても興味を持って聴き続けるのではないか、という考えのもと実験を行い、earcon の使用者と非使用者に聴き方の違いが発生したことがわかった. [7]
したがって、単純接触効果によってクラシック音楽に対するイメージは変わることがわかった。

2.1.4 クラシック音楽コンサートで演奏される曲

1984 年と 2004 年の関西 2 府 4 県で行われた演奏会で取り上げられた楽曲を大阪音楽大学音楽博物館所蔵の関西洋楽文化活動資料を元に調査した研究「クラシッ

ク演奏会での選曲傾向：1984 年と 2004 年の比較：中間報告」によると 1984 年の鍵盤楽器独奏（ピアノ 1 台 4 手・2 台 4 手等を含む）演奏回数上位 10 位の作曲家は下図の通りだ。

1984 年		2004 年	
1	Chopin, F.F. (270)	1	Chopin, F.F. (661)
2	Bach, J.S. (106)	2	Liszt, F. (271)
3	Liszt, F. (99)	3	Beethoven, L.v. (252)
4	Beethoven, L.v. (93)	4	Bach, J.S. (188)
5	Mozart, W.A. (88)	5	Debussy, C. (149)
6	Schumann, R. (67)	6	Schumann, R. (147)
7	Ravel, M. (60)	7	Ravel, M. (91)
8	Debussy, C. (59)	8	Mozart, W.A. (88)
8	Brahms, J. (59)	9	Brahms, J. (83)
10	Rakhmaninov, S.V. (41)	10	Schubert, F. (81)

図 2.2 クラシック演奏会での選曲傾向　1984 年と 2004 年の比較　中間発表 p120 より引用

1984 年から 2004 年にかけて演奏機会は増えているようだが、どちらもショパンの演奏回数が 1 位となっている。これはショパンのピアノ曲が多いためか。また、2004 年にはリストが順位を上げて 2 位となっており、リストもまたピアノ曲が多い。[8] 以上が演奏者が演奏会で演奏する際に選んでいる作曲家の傾向だが、実際演奏者はどうやって演奏会で演奏する曲は決めているのだろうか。

「演奏会のプログラム構成に関する一考察」によると、「ラ・フォル・ジュルネ」を創始したルネ・マル タンは、音楽プロデューサーとして音楽祭全体のプログラムを全て自分で決めている。その際、自 分の知っている曲を選び、その曲をある人が聴い たときに、「どうやって受け取るのか」というこ とを常に想像し、また、「音楽的な道のり」というものも、いくつも用意している、と述べている。 例えば、この選曲は朝のため、この選曲は昼のため、この選曲は夜のため、というような道のりで ある。あるいは、ある曲を聴く。すると、次はこういう曲が必要になってくるだろうな、ということを考える。また、プログラム構成においては、原曲はもちろん、編曲版もあるなど、音楽に精通 した方にも満足してもらえるような内容が必要だと述べている。（演奏会のプログラム構成に関する一考察: 4 つ

の教育的アプローチによる　より引用 [9]）

つまり、演奏者は聴衆がこの曲を聴いたらどのような気持ちになるのか、また演奏するシーンによって考え方を変えているということだが、そもそもクラシック音楽に精通しているクラシック音楽のプロである演奏者が演奏経験もなく、音楽の知識もないであろう聴衆の考えを正しく想像できているとは思えない。結局何を持って聴衆が聴きやすいと感じているのかわかっていないのではないかと考えた。

第 3 章
予 備 実 験

3.1. Web classic concert

クラシック音楽の初心者に向けて曲目のデザインをするためクラシックピアノコンサートを行い、それを予備実験とした。予備実験では当日の演奏会で演奏される曲目のプログラムは公開せず、聴衆を A グループと B グループにわけ、それぞれ演奏会で演奏される曲を事前に予習として YouTube や CD などで聴いてもらった。
なお、曲による感じ方の差を軽減させるためにそれぞれのグループには別々の曲の予習を依頼した。
前章で述べた通り、楽曲と数秒単位で単純接触することで聴衆の反応の差があることは明らかになっている [7] が、本実験では楽曲全てを通して聴いてもらうことにより一層のクラシックへの好感度アップを試みた。
また、コンサートは COVID-19 の影響によりリアルで開催することは不可能だったため、オンライン生配信で行い、クラシック音楽初心者にオンラインコンサートという切り口からも敷居を低くするアプローチを試みた。
録画した映像を配信するという方法のオンライン演奏会の方が音質の良さが見込めるが、今回の場合は聴衆ができるだけリアルのコンサートに行った感覚で聴いてもらいたかったため、生演奏の緊張感が伝わるよう生配信で行った。

3.1.1 コンセプト

下記 2 つをコンセプトにコンサートを行った。

- ”コンサートで演奏される曲を予習することによってコンサートを楽しんでもらう”
- ”オンラインコンサートでクラシック音楽初心者にとって敷居が低いコンサートを体験してもらい、アフターコロナで生の演奏会に訪れてもらうきっかけとしてもらう ”

3.1.2 概要

調査方法:web コンサートをクラシック音楽初心者に視聴してもらった。

アンケート:視聴後に Google フォームで回答してもらった。

日時:2020 年 6 月 21 日 13:00-

対象聴衆:10 代-60 代のクラシック音楽のコンサートに普段訪れない人

演奏楽器:ピアノ

演奏者:国立音楽大学演奏創作学科鍵盤楽器専攻卒業者 2 名

司会:筆者

配信方法:zoom を通して YouTubeLIVE で生配信

使用マイク:演奏者 1 ZoomIQ6、演奏者 2 FIFINE コンデンサーマイク

使用カメラ:演奏者 1 iphone7、演奏者 2 Mackbook Pro

画角:

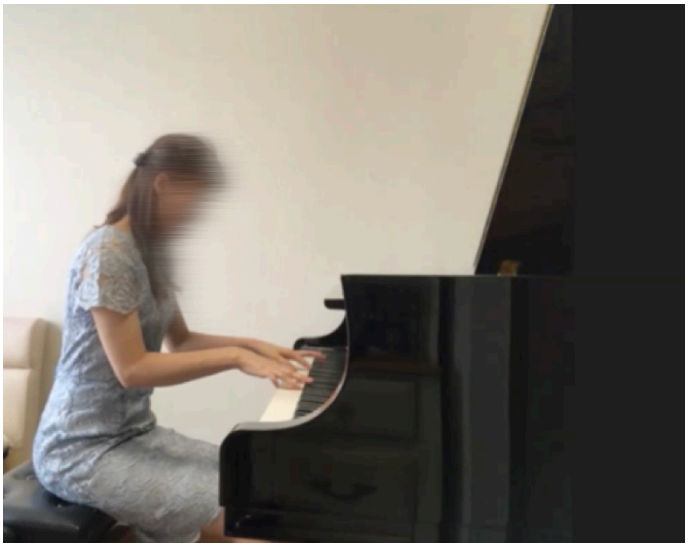


図 3.1 演奏者 1

図 3.2 演奏者 2

プログラム:

演奏者 1
M1 チャイコフスキー作曲　四季 12 の性格的小品より 5 月
M2 チャイコフスキー作曲　四季 12 の性格的小品より 6 月
M3 ベートーヴェン作曲　　ピアノソナタ第 17 番テンペストより第 1 楽章
ー休憩ー
演奏者 2
M4 ラフマニノフ作曲　　エレジー
M5 チャイコフスキー作曲　ドゥムカ

グループ A 予習曲:M1、M4

グループ B 予習曲:M2、M5

3.1.3 演奏会当日の流れ

12:00 演奏者 2 人と司会者の 3 人で Zoom にてリハーサルを行う
13:00 ライブ配信の不具合で配信開始ができず
13:20 YouTubelive の URL を作り直し、聴衆に送り直し、演奏会開始
14:00 視聴後アンケートの記入を促し、演奏会終了

3.1.4 アンケート結果と考察

※パーセントは全て小数点以下第一位で四捨五入して計算している。
A グループは男性 15 人、女性 5 人の合計 20 名。B グループは男性 6 人、女性 4 人の合計 10 名。両グループ合計 30 名。

Q1 年齢

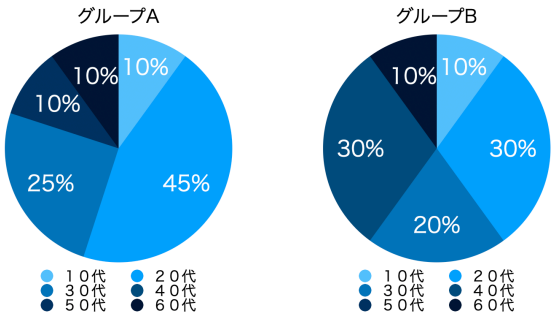


図 3.3 年齢層グラフ

今回はこれから新しく新規ファンになってもらい、長くクラシック音楽を楽しんでもらいたいと考えたため 20 代 30 代をメインターゲットとしていたため、年齢層のボリュームゾーンは A グループは 20 代 30 代。B グループは 20 代 30 代 40 代だった。

Q2 職業

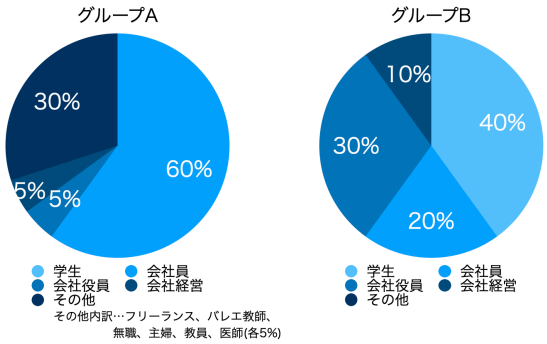


図 3.4 職業グラフ

職業のボリュームゾーンは A グループは会社員。B グループは学生だった。

Q3 事前に予習をお願いした曲は何回くらい視聴しましたか？

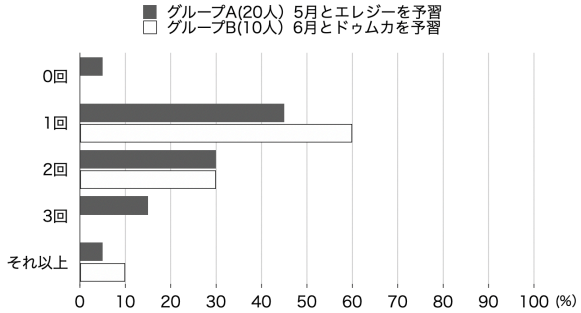


図 3.5 予習回数グラフ

両グループとも大体の人が 1,2 回予習として曲を聴いてからコンサートに参加していた。

Q4 今回の演奏会の曲の中でどの曲が一番 BGM として使用したいと感じましたか？

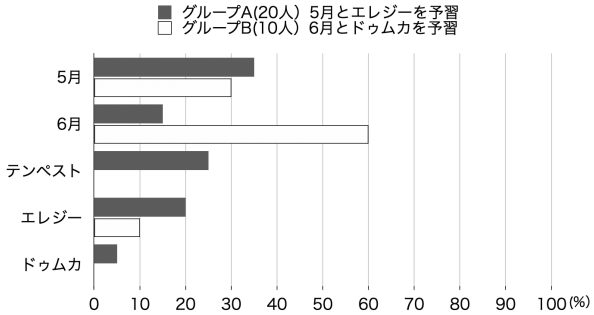


図 3.6 BGM としての人気曲

どちらのグループも事前に予習した曲の方が BGM として使用したいと感じている人が多かった。一度聴いている曲の方が安心して聴くことができるのか、予習して曲の流れを知っているため集中して曲を聴く必要がないのか、BGM は聴き流す用なのでゆったりしている曲調が人気なのかいずれの何が理由なのかは今回の予備実験では明らかにならなかったが、聴いたことのある曲の方を好む傾向

にある人が多いようだ。
ドゥムカの BGM としての人気は両グループともに低かった。

Q5 これを機に生のクラシックコンサートにも行ってみたい！と思いましたか？

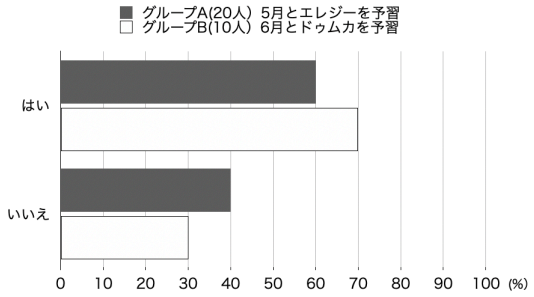


図 3.7 リアルの演奏会へのきっかけ

「はい」と答えた人の理由を抜粋すると、「Web 配信だとどうしても音割れであったり、　小さな音が聞こえにくいこともあったので、やはり生の音をホールなどで聞きたいと思った。」「臨場感」「その場でないと感じ取れないものがあるから」「今回のコンサートをきっかけに生でも見てみたな〜って思った。web でのクラシックコンサートもいいのだけれど、演奏者に拍手や労いの言葉をかけられないのは演奏者も視聴者も残念」といった声があった。
web コンサートではクラシック音楽コンサート独特の一方通行な音楽コミュニケーションがより一層増長されてしまい、結果としてコンサートに参加しているというよりは、俯瞰して映像を見ている気持ちになってしまい、さらにインターネットを介することで音質が悪くなってしまい、自宅で演奏しているため、ホールで演奏するような響きが出せないことから、マイナスの理由から生のクラシックコンサートに行きたいと答える人が多い傾向にあった。
「いいえ」と答えた人の理由を抜粋すると、「家で聴くのが好き」「web 演奏会でも楽しむことができたため」「初心者のわたしにはコンサートは敷居が高いので」「ホールのような場所でクラシックを聴くのは性に合わず、なおかつ、周りの目を気にする必要があるため」「個人的に、音楽はマイペースに聴きたいので、ちょっと形式ばった感じはちょっと苦手なのです。」「意欲をかりたてられはしなかった」

といった声があった。
生のクラシックコンサートに行ってみたい！という意欲を刺激することができなかった理由は決してマイナスな理由だけではなく、web コンサートのプラスの面が作用していることがあるとわかった。

Q6 またこのような web で開催されるクラシックコンサートなら視聴したい！と思いましたか？

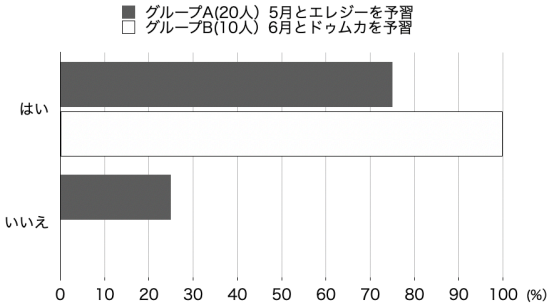


図 3.8 web クラシックコンサートへの再度参加希望度

「はい」と答えた人の理由を抜粋すると、「手軽に視聴できるのは敷居が低くてありがたいです。」「初心者でも気軽に聴けるので」「自宅に居ながら気楽に聞けて良い。また、昨今の状況のためコンサートなども尽く中止や延期になってしまっているので、このような形で芸術に触れる機会がなくならないのは嬉しい。」「家にいても普通にライブのクラシック音楽会に聴けるし、ドレスコードを考える必要もなし。楽です。」といった声があった。
コンサートの対象者がクラシック音楽の初心者のため、敷居が低く、手軽にコンサートを聴くことができる点を気に入る聴衆が多かった。また、このコンサートを行った時期は COVID-19 によって生のコンサートを開くことができず、自粛明けすぐというタイミングだったので、家でイベントに参加できるということも好印象だったようだ。
「いいえ」と答えた人の理由を抜粋すると、「音が割れているから」「ライブの雰囲気が伝わらないから」「音が悪くなるので」といった声が上がった。

やはり web コンサートでは音質の問題が多い。コンサートホール等を貸し切って、撮影機材もプロが使うようなものを使用すればもう少し音質が上がるのかもしれないが、自宅で行ったため音質は限度があった。次回開催する場合はそれぞれの自宅からつなぐのではなく、一箇所に集まり配信することが音質向上の手助けになるのではないかと考えた。

Q7 今回の演奏会の曲の中でどの曲が一番もう一度自分で調べて聴いてみよう！と思いましたか？

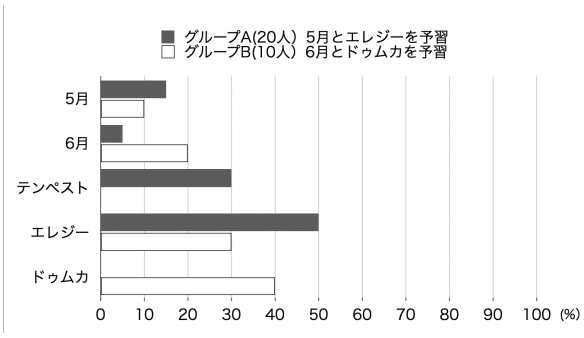


図 3.9 もう一度視聴したい曲

どちらのグループも予習した曲の方がもう一度自分で調べて聴きたいと考えている人が多い傾向があった。
予習として一度自分で検索して聴いたことがあるためコンサートで演奏を聴くとみんな 2 回以上は聴いているということになる。2 回以上聴くと知っている曲から→聴いていて心地の良い曲になるのだろうか？その答えは今回の実験では明らかにならなかった。

Q8 今回の配信でカメラの位置は全体を映していましたが、手元だけを映している方が、興味を持って見聴きすることができると思いますか？また、それはなぜですか？

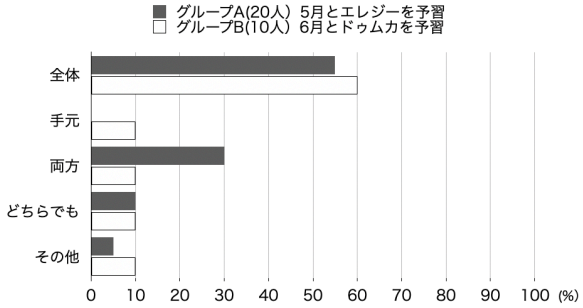


図 3.10 カメラアングルについての希望

文章形式で回答してもらったが、書いてある内容を 5 項目に分類し、グラフにした。手元を見るよりも全体を見て演奏者の表情や姿勢などから気持ちを感じ取りたい聴衆が多い傾向にあった。
その他の分類の中には「ピアノの練習をしている人は手元だけ、それ以外の人は全体が良いと思いました。」という回答もある。通常クラシックピアノコンサートでは、筆者も含めピアノを学んでいたり、クラシック音楽の既存ファンは座席を取るときに舞台に向かって左側の座席 (下記画像白枠) を好んで選択する。それは演奏者の手の動きをよく見ることができるためだ。一番のベストポジションは下記画像では座席がない演奏者と直線の位置だ。その位置であれば演奏者の表情と演奏者の手元の両方を見ることができる。したがってこの問いの答えの結果はクラシック音楽初心者ならではの傾向であることが考えられる。

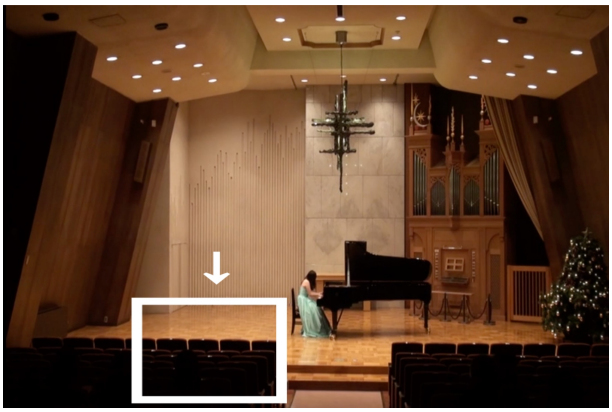


図 3.11 筆者の発表会の際の写真

3.1.5 考察まとめ

予備実験ではコンサートで演奏される曲を事前に予習することによる効果をはかった。つまり、知っている曲と知らない曲の差を調査したが、「Q4 今回の演奏会の曲の中でどの曲が一番 BGM として使用したいと感じましたか？」と「Q7 今回の演奏会の曲の中でどの曲が一番もう一度自分で調べて聴いてみよう！と思いましたか?」という質問の回答では、どちらのグループも事前に予習を依頼した曲を選ぶ人が多い傾向にあったことから、知っている曲であれば頭の中にメロディーが残り、聴いたことがある安心感のあるメロディーとして自身にインプットされることから今後も聴き続けたいと考える人が多いようだ。
だが事前に視聴した回数は 1、２回と答えている人が多く、知らない曲を 1、2 回聴いたところで全てのメロディーや曲全体の動きを把握できるとは考えにくい。したがって全く聴いたことのない曲と 1、２回聴いたことがある曲との差は街中で流れていてたまたま耳にしたことがある曲が、コンサートで流れたような気持ちになるのではないか、つまり先行研究で述べた単純接触による断片的な接触 [7] と、曲を通して全て聴いたことがある（１、2 回程度）ことはその後に及ぼす効果的にはあまり差がないように考えられる。
事前に曲の予習を依頼することができない通常のコンサートでは、有名曲ではなくても聴いたことがあるような、ありふれたメロディーや有名な作曲家の作品などをコンサートで演奏すると、聴衆がたとえその曲を知らなかったとしてもコンサートから帰宅後に自身で曲を調べ、聴いてみる。そしてその曲の関連作品などからまた別の楽曲を知っていき、コンサートに足を運ぶようになる、というサイクルができそうだ。
コンセプトを”オンラインコンサートでクラシック音楽初心者にとって敷居が低いコンサートを体験してもらい、アフターコロナで生の演奏会に訪れてもらうきっかけとしてもらう”としたが、「Q5 これを機に生のクラシックコンサートにも行ってみたい！と思いましたか？」という質問で「はい」と答えた人は A グループは 60 パーセント、B グループは 70 パーセントという数字が出ており、また「いいえ」と答えた人の理由も Web コンサートのプラス面である、家から出なくて良い、敷居が高くない、web でも十分楽しめたため等の回答が多くあったことから、

YouTubeLIVE という Web 上でクラシックコンサートを開催することについては好感触であると考える、また、「Q6 またこのような web 上で開催されるクラシックコンサートなら視聴したい！と思いましたか？」という質問でも「はい」と A グループは 75 パーセント、B グループは 100 パーセントの人が回答しており、「いいえ」と答えた人もライブの雰囲気が伝わらないから、音が割れているから、という声があるため、音質の問題を向上させることができれば Web 上でのコンサートはクラシック音楽初心者にとってクラシック音楽に対する敷居の高さを解消するために非常に役に立つツールであると考えられる。web 上でのコンサートでは生の演奏会とは違い、自分で座席を選択できないので、カメラの位置が重要であるが、「Q8 今回の配信でカメラの位置は全体を映していましたが、手元だけ映している方が、興味を持って見聴きすることができると思いますか？また、それはなぜですか？」という質問の答えは A グループは 55 パーセント、B グループは 60 パーセントが「全体」と回答して、それに続いて多い回答が「両方」であった。クラシック音楽の初心者は演奏を聴く際に指の動きなどの技巧的な面はあまり興味はなく、演奏者が演奏している全体の雰囲気を見たい傾向にあるようだ。しかし、演奏者であれば、コンサートホールの響きなどの考慮すべき点がない場合、できるだけ演奏者の手元（腕から指先にかけて）に着目して聴きたいのではないか、と考えた。アンケート結果の「その他」の回答の中でも「ピアノの練習をしている人は手元だけ、それ以外の人は全体がいい思いました」という回答もあり、初心者と演奏者では演奏風景のどこに着目して演奏を聴いているのか、ということも異なるようだ。

3.1.6 課題

ひとつめの課題は音質についてだ。司会者や演奏者がそれぞれ違う場所にいての配信だったが、生の演奏会の緊張感を web 上であったとしても感じてもらいたかったことから生配信とした。そこでそれぞれ離れた場所からの配信方法として Zoom を介して YouTube で配信をするという手法をとったため、音割れなどが起きてしまったが、司会は生放送で喋り、演奏は聴衆にバレないように切り替えるなどといった対策をとった方が音質は向上しただろう。

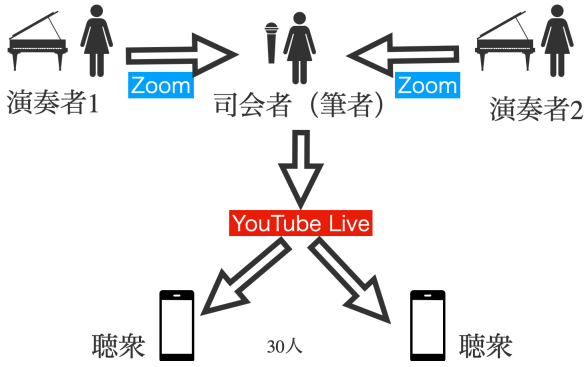


図 3.12 接続方法図解

ふたつめの課題は上記のような配信方法をとってしまったが故に、YouTube 上で遅延が発生しており、コメント欄などを読んで聴衆とコミュニケーションをとることが不可能だったことだ。クラシック音楽初心者を対象としていたので、作曲者や曲の情報などをプログラムと称して画像と口頭で詳しく説明したが、遅延によってそれについての質問や、演奏者への質問を受けることができなかった。もしコメント欄との会話ができていたら、聴衆と演奏者の相互コミュニケーションを図ることができ、より一層初心者が楽しみやすいコンサートになっていただろう。

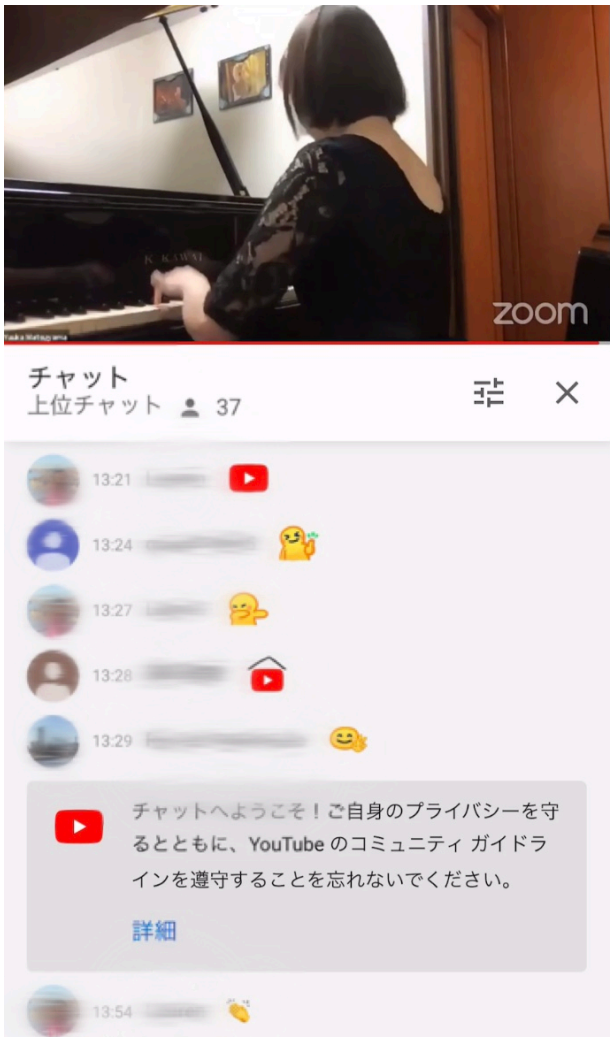


図 3.13 コメント欄

みっつめの課題は普通の一般的なクラシック音楽の演奏会では全員が曲の予習をしてくるわけではないので、聴衆の知っている曲、聴いたことがある曲で演奏会の曲目を構成することは不可能ということだ。そこでクラシック音楽の初心者が聴きやすい曲は、誰でも知っているような有名な曲ということ以外で何か初心者に共通する要素があるのかを調べなくてはならない。

第 4 章
デ ザ イ ン

4.1. クラシック音楽初心者のためのプレイリスト

予備実験ではクラシック音楽初心者に対して Web 上でアプローチすること、また誰もが聴いたことがあるような有名曲、1 度でも聴いたことのあるような耳障りの良い曲や、有名作曲家の曲をコンサートの曲目として入れることでその後に聴き続けてもらったり、そこからまた別の楽曲を知ってもらうことができるということなどが明らかになった。それを踏まえて、クラシック音楽初心者はどのような楽曲であれば楽しむことができるのか、初心者が曲に対して抱く共通の考え方があるのかどうかを探るため、クラシック音楽初心者に向けて YouTube 上に載っているピアノ演奏動画でプレイリストを作り、擬似的にコンサートに参加したつもりで曲を聴いてもらった。録画された動画であるため実際クラシック音楽コンサートに参加した時と全く同じ心理状況で曲を聴くことができるわけではないが、予備実験で web からのアプローチが効果的であったことや、昨今の世の中のコンサート開催状況をみてプレイリストという形でクラシック音楽初心者に送付し、アプローチした。

4.1.1 コンセプト

下記をコンセプトにクラシック音楽初心者のためのプレイリストデザインを行った。

・”クラシック音楽初心者がクラシック音楽コンサートに訪れた際に楽しんでもらう事ができるようにクラシック音楽の初心者が聴きやすいと感じる事ができる楽曲のプレイリストを作る”

4.1.2 プレイリスト ver1 作成

表 4.1 プレイリスト ver1 一覧

作曲者	曲名	作曲年	調
演奏者	URL		演奏秒数
D. スカルラッティ	ソナタ k9 L413	不明	ニ短調
赤松 林太郎	https://youtu.be/H5v47-OE0ak [10]		3:48
A. モーツァルト	ロンド　kv485	1786 年	ニ長調
Florian Mitrea	https://youtu.be/TTOjvE1l-Ds [11]		4:24
R. シューマン	ピアノソナタ 2 番第 1 楽章	1833〜1838 年	ト短調
Ian Gindes	https://youtu.be/z28wyqvvCN8 [12]		7:02
S. ラフマニノフ	楽興の時　第 4 番	1896 年	ホ短調
Nikolai Lvovich Lugansky	https://youtu.be/WhLDse5R8dQ [13]		2:51
F. ショパン	スケルツォ第 2 番	1834 年	変ロ短調
Krystian Zimerman	https://youtu.be/S94Nh-bSomo [14]		10:30
G. フォーレ	3 つの無言歌作品 17 番第 3 番	1863 年	変イ長調
Théo Fouchenneret	https://youtu.be/DlAGSsW12GA [15]		2:44
L. ベートーヴェン	ピアノソナタ 14 番月光第 3 楽章	1801 年	嬰ハ短調
辻井 伸行	https://youtu.be/nDXY8iPDriI [16]		7:16

4.1.3 楽曲解説と選択理由

様々な作曲家、演奏者を入れることを意識したが、現代曲は初心者にはあまり聴いたことがなく、とっつきにくいのではないかと考えたため、バロック、古典派、ロマン派の作曲家メインでプレイリストを構成し、曲順は聴衆が疲れないよう演奏時間の長い曲と短い曲を交互に組むことを意識した。また、予備実験での結果から有名曲を最低でも 1 曲は入れるように意識した。

・D. スカルラッティ作曲　ソナタ k9 L413

この楽曲は「パストラル」の呼称を持ち、19 世紀に最もよく知られたスカルラッティのソナタの 1 つである。音形は簡素で技巧的な第 10 番と対照的である。特徴的な 3 度の協和音程は響きに平明さを与え、オクターヴで響きを増した終止の長い主音は確かにパストラルという呼称を納得させるものの 1 つである。（ピティナ・ピアノ曲辞典より引用 [17]）

D スカルラッティは J.S. バッハと生まれ年が一緒のバロック時代の作曲家。 現代ではピアノ作品ですが、作曲された当時はチェンバロで演奏されていたため、軽いタッチでかっちりとテンポを崩さず演奏する曲が多い。クラシック音楽の初心者の方はバッハと聴くと音楽の授業で習ったつまらないクラシック音楽の印象を思い出してしまうのではないか、という懸念から、同じバロック時代だが、初心者にはあまり知られていないであろう作曲家の D スカルラッティの曲を選択した。プレイリストの最初ということもあるので、分数が短く、トリルで華やかに、ソナタ形式でテーマがわかりやすく繰り返され、穏やかなこの曲を選択した。

・A. モーツァルト作曲　ロンド　kv485

1786 年に、シャルロッテ・フォン・ヴュルベン嬢のために作曲された。アレグロの 4 分の 4 拍子、ニ長調で書かれている。主要なテーマは、主和音と属和音の構成音をなぞる簡素なものを主体としている。しかし、そこに前打音を付加したり、弾むようなリズムで仕立てたりすることにより、明快でかわいらしいメロディーを生み出している。左手は分散和音を主体としているが、この左手が低音域でメロディーを歌う場面もある。尚、このロンドは、主要テーマが主調以外でも提示され、音楽の形式論で一般的なロンド形式よりはソナタ形式に近い構成となっている。（ピティナ・ピアノ曲辞典より引用 [18]）

モーツァルトは学校の音楽室に絵画が飾ってある場合も多く、名前を聞いたことがない人はいないと考え、またスカルラッティの曲から少し印象を変えるために長調を選択した。

・R. シューマン作曲 ピアノソナタ 2 番第 1 楽章

シューマンの劇的なエネルギーが一気に爆発した、明快な曲である。ト短調の主和音を強く打ち鳴らすと、激しく、切迫した性格の第 1 主題が始まる。推移部からすでに平行調（変ロ長調）となり、そのまま内省的な第 2 主題が続く。展開部は主に第 1 主題の動機に基づく。この楽章の速度指定は冒頭に、「出来る限り急速に So rasch wie möglich」とあるが、16 分音符のユニゾンが続くコーダの開始部では「もっと急速に Schneller」と、そして第 1 主題が部分的に再帰する個所からは「さらに急速に Noch schneller」、記されている。論理的には奇妙な速度指示だが、常に何かに駆り立てられるような曲調に合致している。（ピティナ・ピアノ曲辞典より抜粋 [19]）
この曲はコンサートや発表会等で演奏している人が非常に多く、とても覚えやすいテーマで、テンポも速く、音数も多いので聴いていてとてもボリュームがあり、今までの 2 曲とは打って変わって違うテイストの曲なので、興味深く聴いてもらえるのではないかと考えて選択した。

・S. ラフマニノフ 楽興の時　第 4 番

楽興の時はラフマニノフが 1896 年に作曲した、6 曲から成る作品集。作曲家でありながら 20 世紀最高のピアニストとしても活躍したラフマニノフらしく、演奏には極めて高度な技巧を必要とする。奇数番目の曲は比較的ゆっくりと、偶数番目の曲は対照的にきわめて速く劇的な雰囲気を持ち、全体が、ロシアの荒涼とした大地を覆う刹那の集積と仄暗く美しい情景に彩られている。急速な左手のパッセージに乗って情熱的なメロディが奏される。（ピティナ・ピアノ曲辞典より引用 [20]）
クラシック初心者が考える有名曲ではないが、見て、聴いて楽しめる終始激しい楽曲。迫力満点で駆け抜けていくような音楽で分数も短いので、飽きることなく演奏を聴けるのではないかと予想し選択した。

・F. ショパン スケルツォ第 2 番

この楽曲は、ショパンが真摯な、あるいは深刻な作品に好んで用いた変ロ短調で開始するが、常に一抹の明るさを保っている。コーダでは、平行調の変ニ長調

に転じ、そのまま華やかに終止する。この曲が明るさを失わないのは、冒頭のユニゾンによる三連音符、第2主題直前の半音階をまじえたスケール、第2主題結尾の走句、中間部では「最大限に繊細に delicatissimo」の指示のある右手の分散和音など、ふんだんに細かな装飾的動機が挿入されるからである。しかしこれらは、単なる技巧誇示の手段に使い捨てられることはなく、精巧な動機労作のパーツとして機能する。すなわち、あらゆる動機や音型が他の部分の主題と何らかの関連をもっている。そのため、800小節に迫る長大な楽曲でも散漫にならないのである。（ピティナ・ピアノ曲辞典より引用 [21]）
ショパンはピアノ曲を多く作曲しており、有名曲も多数あり、クラシック音楽初心者であったとしても、どこかしらでショパンの曲を耳にしたことがあると考える。そこで、聴いたことのある作風であれば興味を持って聴いてもらえるのではないかとい考え、選択した。

・G. フォーレ　3つの無言歌作品17番第3番

第3曲目は、フローラン・サリオ夫人に捧げられている。第2曲目に引き続き、左手の分散和音に乗って右手のメロディーが優美に歌われる。冒頭の部分は、《ドリー》の＜子守歌＞に通じるものが感じられる。メロディーはこの作品の終結近くで再現された際に、カノンのような手法で巧妙に扱われる。（ピティナ・ピアノ曲辞典より引用 [22]）
フォーレは初心者にとって馴染みのない作曲家だと考え、ショパンとベートーヴェンの間に構成した。また、フィナーレに向けて箸休めのような意味を込めて静かで短い曲を選択した。

・L. ベートーヴェン　ピアノソナタ14番月光第3楽章

この楽曲は弟子であり恋人でもあったといわれる14歳年下の伯爵令嬢ジュリエッタ・グイッチャルディに捧げられている。第3楽章は内容的に見てもピアニスティックな効果においても、この時点までに作曲されたベートーヴェンの作品のなかでもっとも充実した音楽となっている。第1主題ははげしく、第2主題は華麗な美しさが印象的だ。（YAMAHA　Make Waves より抜粋 [23]）

予備実験での知っている曲の方が今後も聴き続けたいと感じる傾向があるという結果も考慮し、有名曲である月光を選択した。クラシック音楽を普段聴く人であれば全楽章を続けて聴くのが一般的であるが、クラシック音楽初心者にソナタ全楽章をプレイリストの最後に聴いてもらうのは、重すぎるのではないかと考えて第 3 楽章を抜粋した。

4.2. クラシック音楽初心者によるプレイリスト ver1 視聴

4.2.1 概要

調査方法：YouTube 上でピアノ楽曲のプレイリストを作成し、クラシック音楽初心者に送付し、それぞれ自宅で視聴してもらった。。

対象：クラシック音楽初心者 38 人（そのうち 5 人は観賞会を開き、観察を行った）

曲数：7 曲

チェックリスト：視聴中チェックリストとして、プレイリスト視聴最中に楽曲それぞれに関する感想等をエクセルに記入し、筆者宛に送ってもらった。

アンケート：視聴後に音楽経験や普段聴く音楽のこと等を Google フォームで回答してもらった。

4.2.2 チェックリスト作成

視聴中に記入してもらうためのチェックリストを作成した。（付録 B 参照）チェックリストには視聴中の注意事項、それぞれの曲の感想と、曲を聴いていて飽きた場合は飽きた時間の分数を書き、一番興味を持って聴き続けられた、聴いていてワクワクした曲には☆、一番聴きやすいと感じた曲には○、一番退屈して眠くなると感じた曲には×を記入してもらった。

4.3. プレイリスト観賞会

4.3.1 概要

日時:2020 年 11 月 27 日 15:00-16:00

人数:クラシック音楽初心者 5 人 (6 0 代男性 A、10 代男性 B、C、50 代女性 A、B)

4.3.2 目的

プレイリストを視聴してもらう際に、各自好きなタイミングで見てもらうスタイルでの調査を取るが、それでは実際に聴衆がどのような表情、姿で演奏を聴いているのかわからないため、クラシック音楽初心者数名をターゲットにリアルな視聴風景の観察を試みた。

図 4.1 観賞会前の様子

筆者:チェックリストに書かれている注意書きを読み上げ、チェックリストに聴衆に名前を記入してもらった。※チェックリストは 1 曲聴くごとに記入してもらった。

ー１曲目　ソナタ k9 L413　演奏開始　ー

男性ＢとＣ：一瞬で飽きたそぶりを見せる。

男性Ａ：興味を持って聴いている様子。

男性ＢとＣ：何度もテーマが繰り返されるたびに飽きて眠そうな様子を見せる。

ー終了後ー

筆者が感想を求めるより先に聴衆が口を開く。

男性Ａ：「ちょっとこれは、、　眠くなってしまうね」

女性Ｂ：「なんとか聴けた」ー２曲目　ロンド　kv485　演奏開始　ー

男性Ｂ：興味を持って画面を覗いている。

男性Ｃ：テーマが始まると頭を揺らしてリズムをとっている

後半になるにつれて全員が飽きてた様子

男性Ｃ：欠伸をしている

ー終了後ー

男性Ａ：「なんか面白くない曲だったね」

ー３曲目　ピアノソナタ２番第１楽章　演奏開始ー

男性Ｃ：最初はとてもノっている様子

女性Ａ、Ｂ、男性Ａ：最初からあまり興味がない様子

途中からテーマが見えずらくなり、混沌としていくパートになると全員が飽きている様子

男性Ｂ、Ｃ：後半の盛り上がり部分で頭を揺らしたり、足でリズムをとっている

女性Ａ、Ｂ：男性Ａは後半もあまり興味がない様子

ー終了後ー

鑑賞することに飽きている雰囲気が漂う（この辺で聴くことに飽きてくるのか?）

ー４曲目　楽興の時　第４番　演奏開始ー

全員画面を集中して見ている

ー終了後ー

女性Ｂ：拍手をしながら「素晴らしい」

男性Ｂ：「動画でこれなら生で聴いたらもっと迫力があってすごいんだろうね」

女性Ａ：「演奏者がうまいね」

（興味を取り戻してくれたのだろうか）

ー５曲目　スケルツォ第２番　演奏開始ー

男性Ｂ:「これ聴いたことある！」と机でエアピアノを弾いている

女性Ｂ:「娘が弾いていた」

（曲名は提示していたがこのタイミングで気がついて驚くということは曲名と内容が一致していない）

中盤のゆったりとした歌う部分で全員が飽きている。

（私が一番好きなところ、私は演奏するときに歌うように演奏するパートが一番得意なので、聴いている時も演奏して表現することに脳が直結している、演奏するときにそれを人によって表現する方法が違うのでそれを学びたいためそこを楽しめるのか）

終盤の一番盛り上がっているところで、まだ曲が終わっていないが喋りだす

女性Ｂ:「気持ちはわかった（演奏者の）けど長すぎ。飽きたよ。もういいんじゃない？」

全員が筆者の方を見る。

最後にはもう全員の集中力が切れている

ー終了後ー

男性Ａ:「これは順番が悪いよ。さっきの曲（ラフマニノフ）が短くて迫力があるのにこれは。。」

女性Ｂ:「もうこの曲は（飽きたので）一生聴かなくていいや」

ー６曲目　３つの無言歌作品 17 番第３番　演奏開始ー

男性Ａ：開始早々欠伸をする

図 4.2　欠伸をする聴衆

眠く飽きている空気が漂う
ー終了ー
ー７曲目　ピアノソナタ 14 番月光第３楽章　演奏開始ー
演奏者が日本で有名ということもあってか画面に集中してみる一同
しかし終盤の再現部で飽きてしまっている様子
ー終了後ー
女性Ｂ:「これ月光の３楽章だから知らないかったのか。１楽章が有名じゃない?」
筆者 :「プレイリストは全体を通して体感何分程度に感じましたか？」
女性Ａ :「20 分くらい！」
女性Ｂ :「30 分くらい？」
筆者 :「40 分程度です。」
ー視聴後アンケートを記入してもらい終了ー

4.3.3 考察

観賞会を観察した結果、下記のことがわかった。

- テーマやメロディーラインがはっきりわかる部分は飽きない人が多いようだが、ソナタ形式でいう展開部や右手と左手がどちらがどこを弾いているのかわからず、ピアノの一番響かない中間部分を入りくんで演奏していて、複雑な混沌としているような箇所で飽きていた。
- 分数が長い曲は最初に興味を持ったり、知っている曲だとしても飽きていた。
- 分数が短い曲の場合、静かでゆったりとした曲であっても眠くなったり飽きたりする人は少なかった。
- 演奏者を知っていると最初は集中してみることができるようだ。
- 自分の身の回りで演奏していた人がいて、記憶にとてもよく残っていても、飽きるようだ。
- 飽きると、欠伸をしたり、筆者の方を見たりと集中力が切れた行動を示した。
- 曲の順番次第で曲そのものの感じ方も変わりそうだ。
- ソナタ形式の場合、提示部は飽きずに聴いている様子だが、展開部を経て再現部に到達すると飽きてしまっている様子。テーマの回帰は、同じ旋律の繰り返しのようなものなので、二度同じテーマを聴くことには飽きてしまうのか、単純に 5 分程度で集中力が切れてしまうのかは今回の観賞会では明らかにならなかった。
- 飽きている場面も多く見受けられたが、プレイリスト自体の体感時間は長く感じていないようだ。

4.3.4 反省・課題

観賞会の反省と課題は下記の通りだ。

1. 1曲終わるごとにチェックリストを記入してもらった際、自由に発言が飛び交っていたので、他の人の発言に惑わされてしまう視聴者もいるかもしれないという配慮をしてプレイリスト視聴中は私語を禁止にした方が良かった。

2. 人との距離が近かったので欠伸や飽きている様子を見て、集中力を疎外してしまうことを配慮して少し席を離して大きなスクリーンで鑑賞を行う方が良かった。

4.3.5 チェックリスト結果と考察

☆…一番興味を持って聴き続けられた、聴いていてワクワクした曲
〇…一番聴きやすいと感じた曲
×…一番退屈して眠くなると感じた曲

曲目	☆	〇	×	聴いたこと有	聴いたこと無
ソナタ k9 L413	2人	7人	2人	6人	32人
ロンド kv485	7人	8人	2人	6人	32人
ピアノソナタ2番第1楽章	2人	1人	14人	3人	35人
楽興の時 第4番	6人	6人	4人	4人	34人
スケルツォ第2番	6人	4人	11人	11人	27人
3つの無言歌作品17番第3番	2人	8人	5人	5人	33人
ピアノソナタ14番月光第3楽章	13人	4人	0人	15人	23人

曲目	飽きた人数	曲の分数	飽きた時間の平均
ソナタ k9 L413	8 人	3 ’47	2’00
ロンド kv485	10 人	4’23	2’31
ピアノソナタ 2 番第 1 楽章	19 人	7’01	3’23
楽興の時 第 4 番	4 人	2’50	1’48
スケルツォ第 2 番	19 人	10’29	4’16
3 つの無言歌作品 17 番第 3 番	7 人	2’43	1’32
ピアノソナタ 14 番月光第 3 楽章	8 人	7’15	2’53

飽きた時間の分布図は縦軸が人数を表したもの。(全員で 38 人のため 1 人増えるごとに約 2.6 %ずつ増えていく) 横軸が時間の経過を表している。

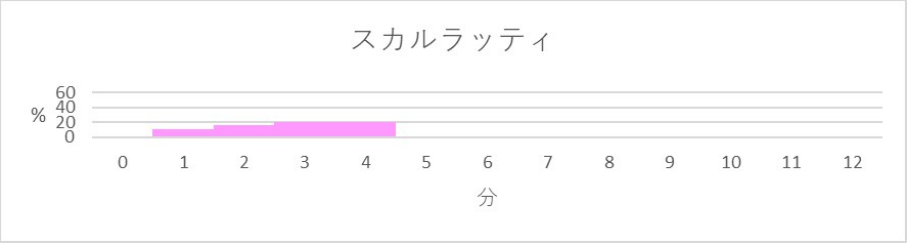


図 4.3 飽きた時間 (ソナタ k9 L413)

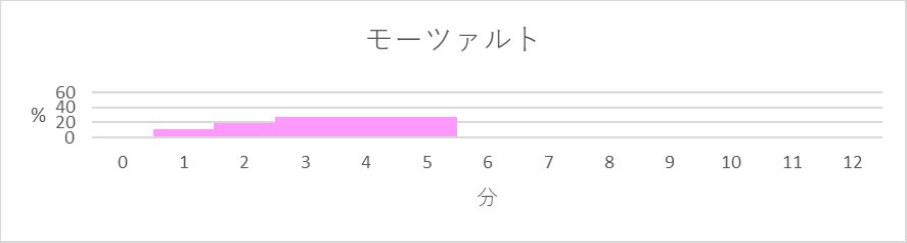


図 4.4 飽きた時間の分布 (ロンド kv485)

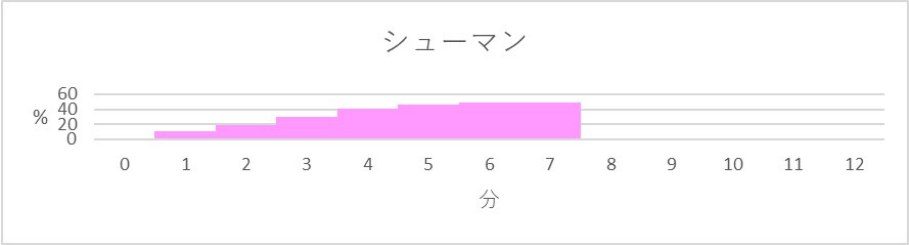


図 4.5 飽きた時間の分布 (ピアノソナタ 2 番第 1 楽章)

図 4.6 飽きた時間の分布 (楽興の時 第 4 番)

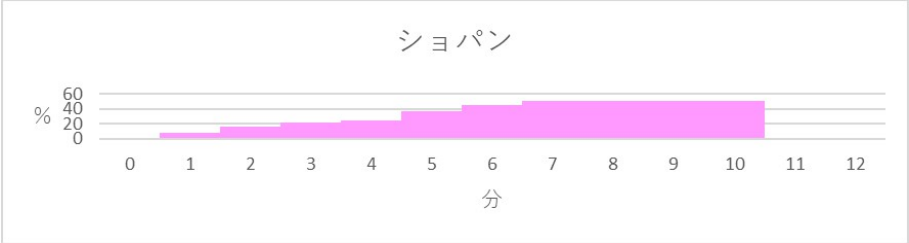


図 4.7 飽きた時間の分布 (スケルツォ第 2 番)

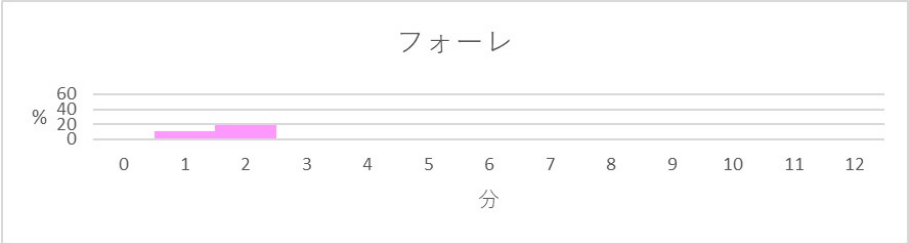


図 4.8 飽きた時間の分布 (3 つの無言歌作品 17 番第 3 番)

図 4.9 飽きた時間の分布 (ピアノソナタ 14 番月光第 3 楽章)

4.3.6 各曲の感想

表 4.2 ソナタ k9 L413 感想抜粋

聴衆	感想
聴衆 1	ホテルのロビーなどでかかってそうな曲だと思った。理由としては曲調がとても穏やかだったからだ。
聴衆 2	軽快で繊細な感じで比較的聞きやすいと思った。同じようなメロディーが繰り返されたので途中で少し飽きてしまった。
聴衆 3	高い音が印象的だった。同じリズムが繰り返されていくことが多く、先のメロディーがわかるようで落ち着いて聴けた。
聴衆 4	聞いたことはないが同じリズムだったので聴きやすかった。
聴衆 5	このソナタは、17〜18 世紀のヨーロッパ社会の美しい牧歌的な生活を、静かで穏やかな音楽の中で体験しているかのような印象を与えてくれます。
聴衆 6	聴いたことはなかったが、アップテンポな曲で聴きやすく飽きを与えなかった。ただ、単調なパターンのため、もう少し長かったら飽きるところだった

リズムやテンポに関しての感想が多く、落ち着いたテンポが好きな人は好感を持っていることが多い様子が見受けられた。同じテーマを繰り返しているためそれを安心感があると感じる人もいる一方で退屈だと感じる人もいる、だが今回の

聴衆の中では前者が多い傾向があった。マーク欄に関しても一番退屈して眠くなる曲に選んだ人は2人のみで、プレイリストの1曲目ということもあってか、比較的好印象で視聴している様子。スカルラッティは同じ年代のドイツ3大Bとしても知られるヨハンセバスティアンバッハと比べると、一般的な音楽の授業で習わないため、知名度は劣るが、作曲家自体の知名度はあまり聴きやすさには直結しないのかもしれない。

表 4.3　ロンド kv485　感想抜粋

聴衆	感想
聴衆1	モーツァルトの曲は聴きやすかった。
聴衆2	いかにもクラシック感があって退屈。
聴衆3	速いテンポで始まり、陽気なムードを伴って、初秋の芝生に到着したような、ゆったりとした気持ちの良い気分になります。何度も何度もテーマが繰り返され、気分が落ち着く。
聴衆4	全体を通してテンポが良く、明るい印象を持った。次のリズム、音程はどうなるのか興味が沸き、考えながら聴くことができた。
聴衆5	高速でスピード感のある点が惹かれるポイントであった。感覚的な感想では楽しくなる曲である。終盤（4分）あたりで静かに幕を閉じていくような演奏もストーリー性を感じて良い。また視聴時間も4分弱と疲れずに視聴できるのも好きになれる、もう一度聴きたいと感じさせる曲であった。
聴衆6	曲の速さや、音の大きさが変わるからジェットコースターに乗っているみたいだった。

古典的な響きと、音楽の授業で習ったであろう作曲家、モーツァルトという名前もあいまってかいかにもクラシックという感じだという印象を受けてしまう人もいたようだ。しかしその一方でこの曲自体は聞いたことがないが、”モーツァルト”という名前だけで好感を持った人もいた。同じテーマが拡大縮小してあらゆるところに登場し、さらにソナタ形式の性質から提示部で提示されたものが展開され、そして再現部で戻ってくるため、ある程度予想がつきやすい曲の展開となっ

ていて聴きやすいことが理由かもしれない。穏やかであるが故に安眠効果もありそうだ。

表 4.4　ピアノソナタ 2 番第 1 楽章　感想抜粋

聴衆	感想
聴衆 1	3 曲目にして、聴いていて同じように聴こえてきたため、冒頭の 1 分程度聞いたところで飽きてしまった。後、曲の時間が長かったため、聴くのが少し憂鬱になった。
聴衆 2	テンポがとても早く、落ち着いて聴けなかった。悲しい、暗いイメージが出てきた。3 分半くらいからリズムが少し落ち着いて、心の葛藤や迷いだったりの心境を音にしているように感じた
聴衆 3	聞いた事ない曲が続き飽きてしまった
聴衆 4	激しい感じの曲で、はじめは興味深かったが、ちょっと長くて飽きてしまった。
聴衆 5	複雑で厚みがある。弾き手もパワーが必要だが、聴き手にもパワーと重みを求められる曲。疲れる。
聴衆 6	この曲からは怒り悲しみ葛藤を感じた。少ししょんぼりした。

ソナタ形式なのでテーマを何度も提示するため聴きやすく、前の 2 曲（スカルラッティとモーツァルト）よりも音数が多く、技巧的で、その上、覚えやすいテーマなので初心者からの人気を予想しプレイリストに入れたが、結果は真逆で、あまり良い印象を抱かれなかった。おそらくテンポが速く音数が多すぎるため初心者の耳では音が追えず、どういう曲なのか理解することが難しいのではないかと考えた。また、曲が長いとのコメントがほとんどで、やはり 5 分を超える曲になると集中力が落ちてくるのか。大きなボリュームの部分が多い曲だが、冒頭 1 分で飽きた、というコメントや、聞いたことがない曲が続き飽きたというコメントもあった。聴いたことがない曲を飽きずに聴き続けることができるのは 3 曲目が限界なのかもしれない。

表 4.5 楽興の時 第 4 番　感想抜粋

聴衆	感想
聴衆 1	感情の激昂と情緒が複雑に感じられ、その世界に引き込まれる感良い
聴衆 2	とにかく暗い曲でまさにクラシックって感じの曲だなっていう印象を持ちました。
聴衆 3	おおーすごーと途中感じて飽きなかったがこれが分の曲なら飽きてそう
聴衆 4	シューマンと比べると現代曲（近代？）らしく厚みの中に華やかさがあり、聴きごたえがある。演奏者のテクニックも素晴らしい。ブラボー！
聴衆 5	常時早いテンポの為、忙しい印象であり落ち着かなかったが、演奏時間が短いため比較的聴きやすかった。
聴衆 6	絶えず曲調が変化するのと曲の長さ的にちょうど良かった。

シューマンと同様技巧的で激しく、短調の曲で重厚感のある曲のため全体的に重い雰囲気になっているが、ふたつの曲の最も大きな差は曲の長さである。そのためここまで評価が変わっているのではないかと考えた。

表 4.6　スケルツォ第 2 番　感想抜粋

聴衆	感想
聴衆 1	すごい速さで飽きてしまった、途中から長いなぁ。。。しか感じなくなってしまった。　1 分半で飽きてる
聴衆 2	短めの曲を聞いた直後だったため、飽きがきてしまった。しかし、3 曲目の時に比べて長めの曲でも少し興味を持って途中まで聴くことが出来た。
聴衆 3	強弱がすごすぎてちょっと聞きにくいと思ってしまった。テンポが遅い部分もあまり聞きやすいと思わなかった。
聴衆 4	順番が悪い。眠くなった
聴衆 5	静かに流れる部分もあれば、力強く演奏されている部分もあったことから、序盤は聴きやすいイメージ。中盤は穏やかな曲調が続き、眠気を誘われた。
聴衆 6	単調であるのに加え演奏時間が他より長いので、より飽きを感じてしまった

この曲は演奏会でも演奏される機会が多く、またショパンであればピアノ曲を沢山作曲しているため、クラシック音楽初心者も作風を感じとり、聴きやすいと思うのではないかと考えていたが、プラスの評価とマイナスの評価が真っ二つに別れた曲であった。前曲のラフマニノフが好評だっただけにプレイリストの順番が原因か、プレイリストの中で最長の演奏時間が原因かでマイナスの感想が多いのかもしれない。

表 4.7　3 つの無言歌作品 17 番第 3 番　感想抜粋

聴衆	感想
聴衆 1	視聴した他曲に比べると大人しい、静かな印象を持った。そのため聴きやすさはある反面、飽きやすい、眠くなりやすい曲である。視聴時間が 2 分強であったため問題なかったが、10 分以上の演奏時間があった場合は、飽きてしまった部類に入ると感じている。
聴衆 2	短い中に想像力を掻き立てられるドラマティックさがあり、 大変聴きやすく感じる。
聴衆 3	街の病院の受付で流れてそうな曲だった。安心させてくれる。
聴衆 4	落ち着いた曲で聴きやすかった。飽きるかと思ったが、演奏時間が短かったので最後まで聴けた。
聴衆 5	非常に静かな印象。先程までの激しい曲調に比べると相対的に退屈に感じる。全体を通してこの曲だけ異質に感じた。
聴衆 6	弾いてる人が可愛い笑顔。

この曲は今まで激しい曲が続いてきたのでフィナーレに向けての耳の休憩の意味を込めて選択したがこの曲は曲順の観点からいうと正解だったようだ。また、曲の分数が短かったため、飽きずに聴きやすかった人が多いようだ。

表 4.8　ピアノソナタ 14 番月光第 3 楽章　感想抜粋

聴衆	感想
聴衆 1	早いテンポだったが、怖さや暗さは感じられなかった。むしろ徐々に曲に引き込まれていくような曲であった。目が冴えそうなメロディーだった。
聴衆 2	この曲を一番初めに聴いていれば、好印象だったのかもしれないのですが、2 つ前や 3 つ前の曲と似ている感じがして、新鮮さを感じなかったです。
聴衆 3	音程の強弱（？音の強さなのかもしれないが、、、）印象的な曲であった。上記に挙げた点が飽きずに視聴できる点でもあり、個人的には飽きやすい、好きな曲の部類に入る。
聴衆 4	序盤のメロディーを聴いた際に、どこかで聴いたことのあるような感じがして、聴きやすかった。聴いたことのあるようなメロディーが、時折聴けたので時間が少し長めの曲でも、飽きてしまった 2 曲とは違い、最後まで演奏を聴くことが出来た。後、演奏しているピアニストの人が、日本人の知っている人が演奏してるという点も興味を持って聴けた要因になった。
聴衆 5	出だしであーなんか知ってる気がするなぁと思って頑張って聞いたが全く知らなかった
聴衆 6	最後の曲だったので気合を入れて聞きました。演奏者の人をテレビで見たことあったので割かし聞けました。

フィナーレにふさわしい大曲だと思って有名曲を選択したが、逆にショパンやラフマニノフと同じように感じてしまう人もいたようだ。この曲は演奏者が日本人で、演奏者を知っていたためより一層飽きずに聴くことができたようだ。

4.3.7 視聴後アンケート結果と考察

※パーセントは小数点以下第一位で四捨五入した

Q1 年齢

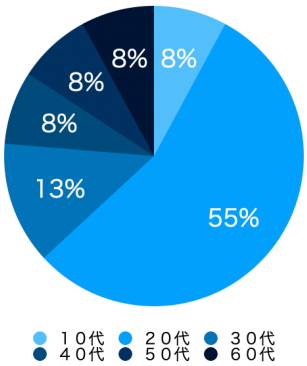


図 4.10 年齢層 2

年齢層は 20 代がメインだった。

Q ２睡眠時間

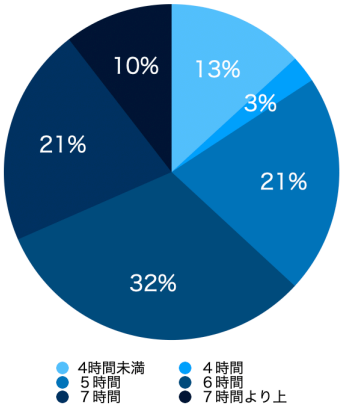


図 4.11 睡眠時間

睡眠時間は 6 時間と答えた人が最も多く、続いて 5 時間と 7 時間という回答が多く、ほとんどの人が十分な睡眠が取れている状態でプレイリストを視聴していたことがわかった。

Q3 演奏経験

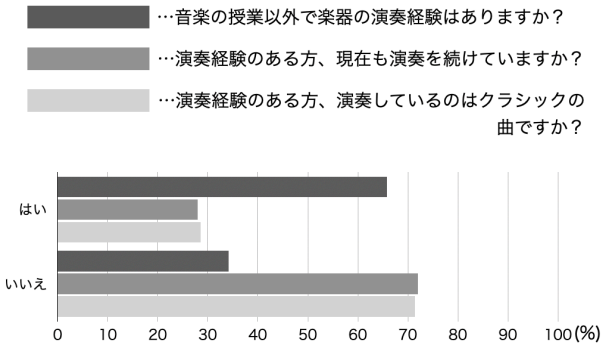


図 4.12 演奏経験

演奏経験があり、尚且つクラシック音楽を演奏していた経験がある人は全体のわずか 7 パーセントだった。ほとんどの人がクラシックを学んだことがないとわかった。

Q 4 今回のプレイリストを聴いて、クラシック音楽に対するイメージは変わりましたか？

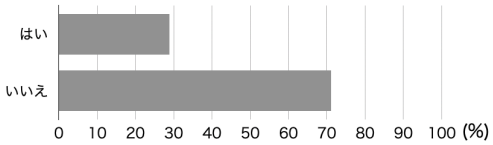


図 4.13 イメージの変化

ほとんどの人のクラシック音楽に対するイメージを変化させることはできなかったが、約 30 パーセント程度の人のイメージは変えることができた。

Q5 Q4 の理由を具体的にご記入ください（回答抜粋）

1. クラシックってこんな感じだよね、、、という印象を受けたのでそこまでイメージに変化はありませんでした
2. ゆっくりな音楽ばかりかと思ってたが、早いやつがあったからそういう曲けっこう聞けた。
3. 演奏時間が長いものばかりだと思っていたので、2分の曲があることに驚きました
4. 曲によって感じるイメージがこんなにも違うのだと感じたから。
5. やっぱり長く理解教養を求められてるなぁと感じた
6. 完成度の高さについて考えさせられました
7. いわゆるクラシックのイメージそのもの
8. クラシック音楽はこんなものだから

Q 6 クラシック音楽に限らず、普段1曲何分程度の曲を聴いていますか？

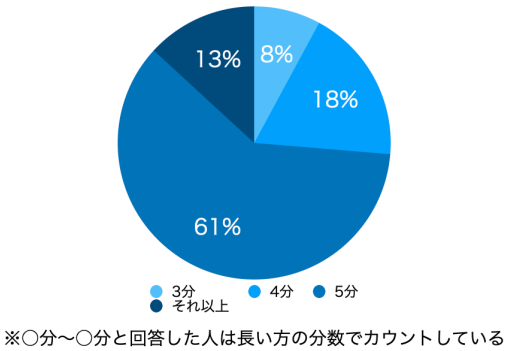


図 4.14 普段聴いている曲の分数

61パーセントの人が長くても5分程度の曲を普段聴いているという結果だった。クラシック音楽はほとんどの曲が5分を超えているので、クラシック音楽初心者には長く感じてしまうのかもしれない。

Q 7　聴いたことのない曲を聴く時、どこに着目して聴きますか？(回答抜粋)

1. メロディー
2. 歌詞
3. 曲の意味、創作された背景。
4. テンポ及び、リズム感
5. どの様な曲調か
6. 耳に残るかどうか
7. 演奏家

Q 8 今回のプレイリストを今後も聴き続けたいと思いますか？

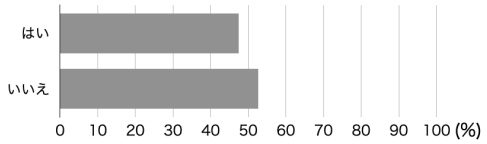


図 4.15 今後も今回のプレイリストを使用するか

「いいえ」と答えた人が多いものの、約半数の人が今後もプレイリストを聴き続けたいと考えている結果になった。

Q 9 今後別のクラシック音楽のプレイリストを作るとして、どのようなクラシック音楽のプレイリストであれば聴きやすいと思いますか？(回答抜粋)

1. 似たような曲をまとめておくことをおすすめします。 そして、これらの曲を聴くにはどのような環境や雰囲気が適しているのか、それぞれのリストにタイトルをつけます。

2. 誰でも聞いたことのあるような曲がいくつか入っていると、合わせて他の曲も聴きやすいかと思いました。
3. 似たようなイメージの曲を、作曲者でどのように違う表現をしあったのかなんてあれば面白いかも。
4. もっと自分でも知ってるような曲 CM に流れたり、学校で習うような
5. 単調にならないように個性的なものを組み入れたらいいと思います
6. 誰でも知ってる超有名な曲しかないプレイリスト
7. 静かなタイプと激しいタイプ別がいいです
8. 初心者でも知ってそうな有名な曲

Q１０今後同じような初心者向けのクラシック音楽のプレイリストを視聴していただける場合は、メールアドレスをご記入ください。

38 人中 23 人の回答があり、約 61 パーセントの人が今後もクラシック音楽を聴き続けてくれると示してくれた。

4.3.8 考察まとめ

今回のプレイリストは 38 人全員聴いたことがある曲は 1 曲もなく、どの曲も過半数以上の人が聴いたことがない曲だった。その中で圧倒的に興味を持って聴き続けられる、聴いていてワクワクした曲として選ばれているのがベートーヴェンの月光第 3 楽章だ。この楽曲は聴いたことがあると答えた人が一番多い（38 人中 15 人) 楽曲だが、聴いたことがない人も半数以上いる。(38 人中 23 人) それにも関わらず退屈して眠くなると答えた人は誰 1 人いなかった。したがって、その曲を知らなかったとしても、退屈することに直結するわけではないということがわかった。
逆に最も退屈して眠くなると感じた人が多かった曲はシューマンのピアノソナタ

第2番第1楽章だ。シューマンは曲中で飽きたと答えた人がショパンのスケルツォ2番と同じ人数（38人中19人）だった。そしてショパンは、一番退屈して眠くなると答えた人がシューマンの次に多い。（38人中11人）
ショパンはプレイリストの曲の中で一番分数が長く、約10分半だが、ベートーヴェンとシューマンもそれぞれ7分弱と今回のプレイリストの中では長い分数だ。したがって曲次第では分数が長くても興味を持って聴き続けることはできるということがわかった。
一番聴きやすいと感じた曲は全体的に分散しているが、一番多いのはモーツァルトとフォーレ（38人中8人）だ。モーツァルトは一番興味を持って聴き続けられたという人も38人中7人とベートーヴェンについで多いが、フォーレは2人と少ない。理由はフォーレはゆったりとした曲でテンポも遅いため、興味の持続はせず、次はどんな展開になるのか集中して聴く必要がなく、それがかえって気を張らずに聴くことができて聴きやすく感じることができるようだ。これは曲の並び順も影響しているのかもしれない。ラフマニノフの楽興の時第4番は観賞会ではとても人気で拍手をしていた人もいたが、全体でみると一番興味を持って聴き続けられた、聴いていてワクワクした曲に選んだ人は6人、一番聴きやすいと感じた曲に選んだ人も6人、一番退屈して眠くなると感じた曲に選んだ人は4人と分散しているため、感じ方は様々な様だ。
一番興味を持ったわけではないし、一番聴きやすいわけではないけれど、一番退屈して眠くなることもない曲はスカルラッティのソナタK9L413だった。特別人気というわけでもないが、聴く分には良いのか、一番最初の曲であったため印象に残りづらかったのかは今回の調査ではわからなかった。今回のプレイリストの曲では大半の人のクラシック音楽のイメージを変えることはできなかったが、普段聴いている音楽が長くても5分と答えている人が多い中で、今後もまた同じ様な初心者向けのクラシック音楽のプレイリストの配信を希望してくれる人は半数以上いたことから、今回のクラシック音楽初心者のためのプレイリストはクラシック音楽初心者に一定数良いイメージや、これからクラシック音楽を聴いてみよう、という想いを持ってもらうことができたのではないかと考える。今後別のクラシック音楽のプレイリストを作るとした場合は、初心者など誰でも知っている曲が良

いのではないかと提案する人が多数いたが、ベートーヴェンの月光第 3 楽章は誰でも知っている曲だと想定してプレイリストを作成した、しかし実際は聴いたことがある人は 38 人中 15 人だったことから誰でも知っている曲とは少し違うように思う。有名曲とはどんな曲なのか人によって考え方が違うため、有名曲という括りでは一概に初心者向けとは言うことはできないだろう。
実際のコンサートとは違い、全ての動画を違う演奏者が弾いていたり、プレイリストは一人で家で視聴するため、誰かとコンサートにいくという付随する楽しみなどは一切考慮されていないため、実際の生のコンサートではもっと違った反応をするかもしれない、また、今回プレイリストに含めた作曲家以外も多くの作曲家がいて、作品も膨大な数があるため一概に今回の結果が全ての場合において適応されるわけではないが、今回の実験からクラシック音楽初心者が聴きやすいと感じる傾向がある曲の特徴は下記だと考える。

1. 演奏分数が短い曲（テンポの緩急や曲調に関わらず 3 分以内）
2. バロック時代、古典派の曲
3. すっきり簡潔な曲
4. 穏やかなパートと激しいパートがはっきり分かれすぎていない曲
5. テンポが一定な曲
6. 緩やかに強弱がついている曲
7. 明るい曲
8. 右手が常にメロディーを歌い、左手が伴奏形の曲

4.3.9 プレイリスト ver2 作成

プレイリスト ver1 での結果を踏まえ、YouTube 上でプレイリスト ver2 を作成した。プレイリスト ver1 を視聴してもらった際にアンケートでクラシック音楽初心者向けの別のプレイリストにも興味があると回答した 20 名に、初心者が聴きやすいと感じることができると考えた曲 6 曲からなるプレイリストを送り、試聴を依頼した。プレイリスト ver1 のチェックリストの際にはクラシック音楽初心者に視聴中チェックリストをエクセルで送付したが、回答が面倒であるというコメントもあったため、今回は google form を用いた。時間的制約もあり、5 名のみから回答が得られ、同様の方法で分析した結果を下記に示した。

表 4.9 プレイリスト ver2 一覧

作曲者	曲名	作曲年	調
演奏者	URL		演奏秒数
M. クレメンティ	段階的な 6 つのソナチネ第 4 番第 1 楽章	1797	ヘ長調
中田 雄一朗	https://youtu.be/HKQw1yR6TOU [24]		1:42
J.S バッハ	フランス組曲 5 番	1806	ト長調
塩崎　基央	https://youtu.be/iGVT43XC_S4 [25]		9:26
F.J ハイドン	ソナタ第 50 番第 1 楽章	1794〜1795 年	二長調
中川 京子	https://youtu.be/HXcfKbE6CfY [26]		3:15
F. ショパン	ワルツ第 16 番	1827〜1830 年	変イ長調
Paul Barton	https://youtu.be/AWJqCEq4UWw [27]		2:36
R. シューマン	子供の情景より「見知らぬ国」	1838	ト長調
Maria Martha Argerich	https://youtu.be/M1_Yjqj9xSY [28]		2:00
F. リスト	2 つの演奏会用練習曲より小人の踊り	1862〜1863 年	嬰ハ短調
斎藤 奏	https://youtu.be/reGxgSpBnOg [29]		3:26

4.3.10 楽曲解説と選択理由

・M. クレメンティ作曲 段階的な 6 つのソナチネ第 4 番第 1 楽章

提示部・展開部・再現部の 3 部分から成るソナタ形式の楽章である。展開部は、転回・ 反復 (ゼクエンツ) などで構成され、再現部で第 1 主題、第 2 主題ともに多少の変化を伴って再現をする構成である。（ピティナ・ピアノ曲辞典より抜粋 [30]）

選択した理由はクラシック音楽初心者が聴きやすいと感じる傾向がある曲の特徴にほぼ全て当てはまっているためだ。

	演奏時間3分以内	バロック古典派	簡潔	パートがはっきり分かれすぎていない	テンポが一定	緩やかな強弱	明るい	常に右手メロディ-左手伴奏
段階的な6つのソナチネ第4番第1楽章	○	○	○	○	○	○	○	△

図 4.16 段階的な 6 つのソナチネ第 4 番第 1 楽章の曲の特徴

・J.S バッハ作曲　フランス組曲 5 番

アルマンド、クーラント、サラバンドと続き、最後はジーグで締めくくる。これら 4 つの舞曲は、17 世紀後半に確立された鍵盤組曲の古典的定型を成す。バッハは当時の慣習に従い、これらの舞曲がすぐにそれと判るような典型的な音型や語法を曲の冒頭から用いている。（ピティナ・ピアノ曲辞典より抜粋 [31]）

選択した理由は通しで演奏した場合、3 分以内にはおさまらないものの、ひとつひとつの舞曲はとても短いため、クラシック音楽初心者が飽きずに聴く事ができると考えたためだ。

	演奏時間3分以内	バロック古典派	簡潔	パートがはっきり分かれすぎていない	テンポが一定	緩やかな強弱	明るい	常に右手メロディ-左手伴奏
フランス組曲5番	×	○	△	○	△	△	○	×

図 4.17　フランス組曲 5 番の曲の特徴

・F.J ハイドン作曲　ソナタ第 50 番第 1 楽章

1794 − 1795 年、イギリスを訪れた際の作曲であることから「イギリス・ソナタ」と呼ばれる Hob. 50 − 52 の 3 曲のソナタの第 1 曲目。全 3 楽章から成る。ハイドンのピアノ・ソナタとしては、比較的規模が大きいもの。（M ボックスより抜粋 [32]）

選択した理由は軽快で明るく、リズミカルで演奏時間も 3 分少々と聴きやすい長さであるためだ。

	演奏時間3分以内	バロック古典派	簡潔	パートがはっきり分かれすぎていない	テンポが一定	緩やかな強弱	明るい	常に右手メロディ-左手伴奏
ソナタ第50番第１楽章	△	○	×	○	○	×	○	×

図 4.18　ソナタ第 50 番第 1 楽章の曲の特徴

・F. ショパン作曲　ワルツ第 16 番

右手は左手の和音が構成する音以外の音に富むこと、右手の各小節の音域が 1 オクターヴと比較的幅広い場合が多いことから、シンプルながらにも優雅さと

いう気品を備えたワルツとなっている。（ピティナ・ピアノ曲辞典より抜粋 [33]）

選択した理由は聴いた事がある人も多いのではないかと推測したためと、プレイリスト ver1 でショパン作曲スケルツォ第 2 番が飽きている人多く、初心者に好まれていなかったため同じ作曲家で短い分数のものを ver2 では入れてみようと考えたためだ。

	演奏時間3分以内	バロック古典派	簡潔	パートがはっきり分かれすぎていない	テンポが一定	緩やかな強弱	明るい	常に右手メロディ-左手伴奏
ワルツ第16番	○	×	×	○	×	○	○	○

図 4.19　ワルツ第 16 番の曲の特徴

・R. シューマン作曲　子供の情景より「見知らぬ国」

行ったことのない国のお話しに耳を傾ける子供。異国への憧れが幻想的に描かれている。（ピティナ・ピアノ曲辞典より抜粋 [34]）

選択した理由は前曲と同じくプレイリスト ver1 ではシューマン作曲ピアノソナタ 2 番第 1 楽章が飽きている人の多かったため同じ作曲家で短い分数のものを ver2 で試すため。また、ゆったりとしたテンポであっても 3 分以内であれば飽きずに聴く事ができる人が多いという結果を踏まえて、ゆったりとしている曲を入れてみようと考えたためだ。

	演奏時間3分以内	バロック古典派	簡潔	パートがはっきり分かれすぎていない	テンポが一定	緩やかな強弱	明るい	常に右手メロディ-左手伴奏
子供の情景より見知らぬ国	○	×	○	○	×	○	○	○

図 4.20　子供の情景より「見知らぬ国」の特徴

・F. リスト作曲　2 つの演奏会用練習曲より小人の踊り

調性の激しい移り変わり、急激なリズムの変化、デモーニッシュな雰囲気ももちあわせた魅力的な練習曲。（ピティナ・ピアノ曲辞典より抜粋 [35]）

選択した理由はクラシック音楽初心者が聴きやすいと感じる傾向がある曲の特徴にあまり当てはまってはいないものの、曲の長さも 3 分半程度と短く派手な曲なのでこのプレイリストのフィナーレを飾るのにふさわしいと考えたためだ。

	演奏時間3分以内	バロック古典派	簡潔	パートがはっきり分かれすぎていない	テンポが一定	緩やかな強弱	明るい	常に右手メロディ-左手伴奏
2つの演奏会用練習曲より小人の踊り	△	×	×	○	×	○	×	×

図 4.21　2 つの演奏会用練習曲より小人の踊りの特徴

4.3.11　チェックリスト結果と考察

☆…一番興味を持って聴き続けられた、聴いていてワクワクした曲

○…一番聴きやすいと感じた曲

×…一番退屈して眠くなると感じた曲

曲目	☆	○	×	聴いたこと有	聴いたこと無
段階的な6つのソナチネ第4番第1楽章	1人	0人	2人	1人	4人
フランス組曲5番	2人	1人	1人	2人	3人
ソナタ第50番第1楽章	0人	2人	0人	2人	3人
ワルツ第16番	1人	0人	1人	3人	2人
子供の情景より「見知らぬ国」	0人	2人	1人	2人	3人
2つの演奏会用練習曲より小人の踊り	1人	0人	0人	0人	5人

表 4.10 段階的な6つのソナチネ第4番第1楽章　感想

聴衆	感想
聴衆1	アップテンポで聴きやすい。
聴衆2	終始単調で楽しめなかった。
聴衆3	単調。
聴衆4	聞きやすい、自分の好みではないが眠くはならず、いい気持ちで聴けた
聴衆5	面白くなかったので1分で飽きた。

半数は聴きやすいと答えたが、半数は単調であると答えた。単調であることと安心して聴く事ができるということは表裏一体であるためだろう。

表 4.11 フランス組曲 5 番 感想

聴衆	感想
聴衆 1	3:40 くらいで飽きてしまった。
聴衆 2	力強くダイナミックで躍動感がよかったが長い。
聴衆 3	エレガントでとても良いが長い。
聴衆 4	フランスっていう感じではなかったが、自分はまだ一回しか聞いてないが一番いいと思った。
聴衆 5	何か分からないが好きな曲。

プレイリスト ver1 の時と同じくやはり長い曲は、飽きてしまい苦手と感じる人が多いようだ。

表 4.12 ソナタ第 50 番第 1 楽章 感想

聴衆	感想
聴衆 1	アップテンポで聴きやすい。
聴衆 2	強烈な魅力は感じなかったが耳が慣れてくると心地良かった。
聴衆 3	コミカルで楽しい曲。
聴衆 4	飽きた。
聴衆 5	引き続き耳にあった曲だと思う。

聴きやすいと答えた人が多いが、飽きたという回答も見られた。

表 4.13 ワルツ第 16 番　感想

聴衆	感想
聴衆 1	アップテンポで聴きやすい。
聴衆 2	メロディーが美しいとも感じたが、ポピュラーに感じ取れ聞きやすかった。
聴衆 3	単調。
聴衆 4	さっきの曲 (ソナタ第 50 番第 1 楽章) とは違いめっちゃくちゃ聴きやすかった 。
聴衆 5	流れで聴きやすい。

聴きやすいと答えた人が多いが、単調であるという回答も見られた。しかし聴衆 3 は段階的な 6 つのソナチネ第 4 番第 1 楽章の感想にも同様のコメントが書かれているため、飽きやすい人なのかもしれない。プレイリスト ver1 で組み込んだショパン作曲の別の曲との評価とは全く違うので初心者が聴きやすいと感じる要素として、作曲家の技法やクセはあまり関係がないのかもしれない。

表 4.14 子供の情景より「見知らぬ国」　感想

聴衆	感想
聴衆 1	聴き馴染みのある曲で聴きやすかった。
聴衆 2	柔らかく穏やかな気分になれてよかった。
聴衆 3	子守唄。
聴衆 4	何故か、情が入ってしまい、曲を聞いたというより、自分の気持ちと照らし合わしました。
聴衆 5	飽きてきたかな。

半数は聴きやすいメロディーでゆったりとしたテンポに親しみを覚えたようだが、半数は眠くなって飽きてしまったようだ。

表 4.15 2つの演奏会用練習曲より小人の踊り　感想

聴衆	感想
聴衆 1	アップテンポで聴きやすい。
聴衆 2	音域とリズムに最後まで馴染めなかった。
聴衆 3	最後がダイナミックで良かった。
聴衆 4	なんか、賑やかでとても良かったです。自分がもし弾くとしたらこれですね！
聴衆 5	学芸会の曲に思えた。

半数は賑やかで最後を締めくくる曲には良いと考えているのに対し、半数は華やかすぎるあまり馴染めないようだ。

4.3.12 視聴後アンケート結果と考察

Q1 年齢

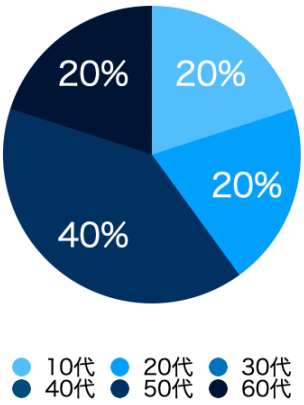


図 4.22 年齢層 3

年齢層は 30、40 代以外だった。

Q2 昨晩の睡眠時間

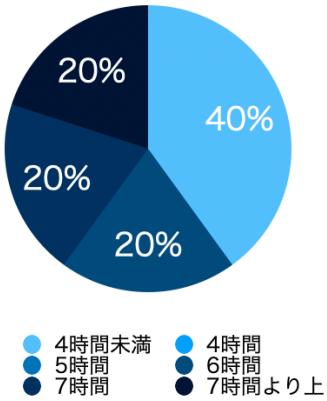


図 4.23 睡眠時間 2

Q3 普段よく聴く曲のタイトルを何曲か（ジャンルは問いません）

1. クラブミュージック
2. 最近聞いていない
3. Tony Bennett(ジャズ)
4. J-pop
5. 宿命、白日、スターライトパレード

それぞれ様々なジャンルの音楽を聴いているようだが、普段からクラシック音楽を聴いている人はいない。

Q4 クラシック音楽についてのイメージの変化

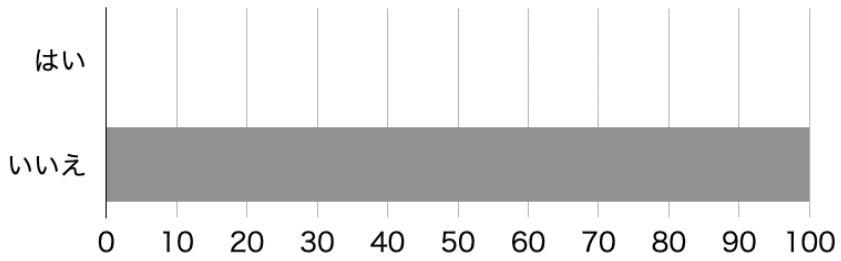


図 4.24 イメージの変化 2

Q5 今回のプレイリストを今後も聴き続けたいと思いますか？

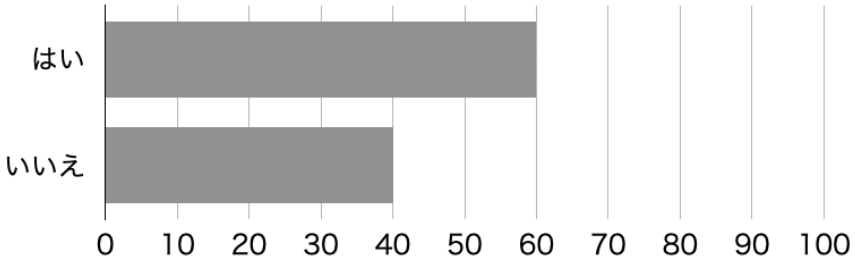


図 4.25 今後もプレイリストを使用するか 2

Q6 今後別のクラシック音楽のプレイリストを作った場合、視聴していただけますか

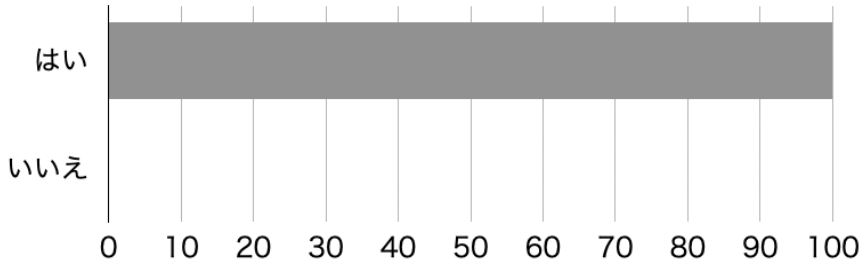


図 4.26 別のプレイリスト

Q4、Q5、Q6 をまとめると、今回の少人数の検証ではプレイリスト 2 でクラシック音楽のイメージを変えることはできなかったが、クラシック音楽を聴いてみようと思うきっかけになることはできたと考えた。

4.3.13 プレイリスト ver2 考察

プレイリスト ver2 では時間制約のため 5 名という少人数の回答しか得られなかったため、チェックリストから ver1 に加えて曲目に対するクラシック音楽初心

者の共通項は探す事ができなかったが、今後もクラシック音楽初心者に向けた別の曲目であれば聴いてもらう事ができそうであった。

第 5 章
演奏者から見た演奏会

5.1. ピアニストにインタビュー

クラシック音楽初心者からのクラシック音楽のコンサートに対するイメージやプレイリストの感想はこれまでの章で述べてきたが、この章ではコンサートについて演奏者の観点から述べる。演奏者は普段からクラシック音楽のコンサートに足を運ぶ機会や回数が多い上に、自身も練習や本番を経験しているため、クラシック音楽初心者とは曲の聴き方や感じ方が違うということは推察されるが、実際にどういった点で異なった考え方を持っているのか、また演奏者の観点から演奏会で演奏する曲目を選択する際どうやってプログラムを組み立てているのかなどを調査するため、音楽大学卒業者に実際にプレイリスト ver1 で使用した曲についてや演奏会についてのインタビューを行った。

5.1.1 概要

日時：2020 年 11 月 19 日 20:00-
方法：ビデオ通話

図 5.1 インタビュー

インタビュアー:筆者

ピアニスト１：Ｎさん
国立音楽大学演奏創作学科卒業
鍵盤楽器ソリストコース修了
現在ＭＰＡ音楽院に在籍

ピアニスト２：Ｋさん
国立音楽大学演奏創作学科卒業
現在国立音楽大学大学院音楽研究科器楽専攻ピアノコース２年に在籍

5.1.2 プレイリスト ver1 に関するインタビュー

Q1 プレイリストの中に実際に演奏会で演奏したことがある曲はありましたか？また、演奏したことがある場合、何度演奏しましたか？

N さん　シューマンのピアノソナタ 2 番を 7 回くらい演奏しました。
K さん　スカルラッティを 1 回、月光を 1 回演奏しました。

Q2 今回のプレイリストの曲目を演奏会で、体力、演奏会の準備時間などの面を考えて、演奏することは可能ですか？

N さん　可能ですが有名曲が多いことが不安で、作曲家のまとまりが欲しいと思いました。
K さん　準備期間によると思うけれど、むりかもしれません。

Q3 各曲ごとに演奏者の観点から感想 (人に勧めたい、ぜひ聴いて欲しい、演奏できるけど曲目に入れたくない、得意じゃない、避けたい etc)

【1 曲目　スカルラッティ作曲　ソナタ　k9　L413 についての感想】

N さん　スカルラッティは大学一年生の試験でみんな弾いたイメージ。サロン的な場所で演奏するのならありだけれど、大ホールのような広い会場で演奏するのは微妙かもしれないと思いました。
K さん　音数が少ないからこそボロが出やすく難しそうだと思いました。

【2 曲目　モーツァルト作曲　ロンド　kv485 についての感想】

Nさん　この曲はあり。この後の時代の曲に進んでいくプログラムを組みやすそうだと思いました。

Kさん　スカルラッティと同様に音数が少ないので難しそう。素敵な曲だけれどモーツァルトは弾きたくないなと思いました。

【3曲目のシューマン作曲 ピアノソナタ　2番　第1楽章　についての感想】

Nさん　演奏映えする曲！以前演奏した際、弾き終えて休憩時間中に聴衆がメロディーを口ずさんでくれた経験が2回あります。その時はやっぱり印象に残っててくれていることが嬉しかった。覚えやすいメロディーなのが良いと思います。

Kさん　「のだめ」で知っている人が多そう！面白い曲だし、主題を覚えやすくて良い。華やかだし演奏したい、何回も主題が歌われるのでそれを追っていると飽きずに聞くことができるかな？と思います。

【4曲目のラフマニノフ作曲　楽興の時　第4番についての感想】

Nさん　弾いたことはないけれど、プログラムに入れる曲としてはあり。これは華やかで聞きやすいしフィギアスケートで使っている人がいるので、知っている人も多いのかな?と思います。やっぱりフィギアスケートなどで使われているものはクラシックを聴かない人でも知っていることが多い気がします。「羽生くんが滑ってた曲だ！」など

Kさん　迫力があってロシア！って感じ。これは初心者の方は聴きやすいんじゃないかな？派手だし、ジャンジャン演奏していると初心者は楽しく思う気がする、何弾いてるかわからない超絶技巧的な感じ！

Nさん　リストのような感じね！

【5曲目のショパン作曲　スケルツォ　第2番についての感想】

Nさん　ショパンはマストで演奏したい！自分自身クラシック音楽の演奏会にショパンが入っていると満足する！これは有名曲だし自分が演奏会をする際も入れたいと思う。でも曲の順番を工夫するかもしれない。昔から現代にこういう風に曲が展開されているんだ。というのを示したいので！

Kさん　スケルツォだけどドラマチックな曲！ショパンは中盤か最後に弾きたいと思います。

Nさん　やっぱり演奏会は曲の順番が重要。

筆者　このプログラムだと、どういう順番で演奏したいですか？

Nさん　やはりこれで行くなら最初はスカルラッティでそこから時代順、だけど最後は華やかにショパンかな。

筆者　お2人ともショパンは絶対に演奏したい、とのことでしたがスケルツォ以外の曲で何か演奏したい曲はありますか？

Kさん　ショパンで他の曲ならバラード1番や前奏曲、マズルカとかも演奏される機会は多いし、自身も演奏したいと思います。

【6曲目のフォーレ作曲　3つの無言歌　作品17第3番についての感想】

Nさん　聴いたことがなかったけれど素敵な曲だと思います。

Kさん　優しい気持ちになることができる、けれどクラシック音楽初心者の方は眠くなるのかな？ゆったりした曲なので。

【7曲目のベートーヴェン作曲　月光第3楽章についての感想】

Nさん　ソナタを楽章抜粋で弾く人は、ほぼいないので全曲のせたらよかったのではないかと思います。それに、この曲も有名だからこそ全楽章がいいと思う。けれど初心者の方は飽きちゃうかな？

Kさん　聞き応えのある曲！でも3楽章よりも1楽章の方が有名なので初心者の方はそちらの方が聴きやすいかもしれないと思いました。

5.1.3 プレイリスト ver1 に関するインタビューの考察

今回インタビューを受けてくれた演奏者たちは音数の少ない曲を大きなホールで演奏するのはあまり気が進まない傾向にあるが、時代順にプログラムを進めていきたいため、最初に古典的な曲を演奏することはあるようだ。
プレイリストの楽曲の中で一番声を大にして演奏映えすると言っていたのがシューマンのピアノソナタ2番第1楽章だった。この曲は華やかで印象に残りやすいメロディーからクラシック音楽初心者でも飽きずに聴くことができるのではないかと予想していた。
ラフマニノフの楽興の時第4番については2人ともジャンジャン派手に演奏している超絶技巧的な要素がクラシック音楽初心者には聴きやすいのではないかと予想していた。ショパンのスケルツォ第2番については2人とも演奏したいと答えた。最後に華やかに演奏したい曲で、この曲に限らず、ショパンの作曲した作品は必ず演奏したいようだ。
フォーレの3つの無言歌作品17第3番についてはクラシック音楽初心者はゆったりとした曲であることから、飽きるのではないかと予想した。ベートーヴェンのピアノソナタ月光第3楽章については有名曲であるため全楽章通して演奏した方が良いと考えていた。
まとめると、演奏者が考えるクラシック音楽の初心者向けの曲の傾向は下記である。

1. 超絶技巧的で達人芸の様な部分が入っている曲

2. 印象に残るメロディーがあり華やかな曲

3. テンポがゆったりしていない曲

5.1.4 演奏会に関するインタビュー

Q4 演奏会の曲目はどうやって選んでいますか？

N さん　得意なもので選びます。やっぱりショパンは入れたいかな。あとは近日中にコンクールがある場合はその曲にしたり、演奏会のプログラムをロマン派尽くしってきめてショパンオンリーにしたり。私の先生は「ベートーヴェン全曲演奏会」が近日中にあったらその月の本番は全てベートーヴェンにしてます！その本番の前後で使い回せそうな曲を選ぶ人が多いとは思います。クラシックに親しみを感じてほしいっていう趣旨だったら、クラシックの他にもジブリ音楽とかディズニーの曲をプログラムに入れる人もいる。お客さんの年齢層とか場所（ホールじゃなくて老人ホームの場合とか）も、プログラム決めるポイントにはなると思います。

K さん　自分がその時に練習している曲を使うかな。ただし時代が偏りすぎないように気をつけます。私の先生に演奏会での曲目を選ぶ際に、モーツァルトとショパン、ショパンとドビュッシー、ハイドンとラヴェルは相性の良い組み合わせだと言われたことがあるのでそれも意識しています。

Q5 曲の演奏順はどうやって決めていますか？

N さん　時代順で最初と最後の曲を派手にします。

K さん　作曲家の時代順や曲の番号順。規模の大きい曲を最後にしたりします。

Q6 演奏家の演奏会のチケットがあったとして、演奏される曲がすべて聴いたことのない曲だとしたら行きますか？

N さん　演奏するピアニストによる！曲目では判断しないかな。でも例えばベートーヴェンコンクールで 1 位をとった人とかの演奏会があったとして、自分がベートーヴェンを演奏する予定がある場合、いきます。

K さん　これは演奏者が巨匠だったら聴いたことのない曲でも聴きに行くし、知らない人なら絶対行かないと思います！

Q7 聴いたことのない曲を聴いてみよう！と思うモチベーションはなんですか？

N さん　勉強になって視野が広がるからです。

K さん　自分が勉強している作曲家だったら、演奏している以外の他の曲を聴いて特徴を知りたいと思うかな！あとは「この曲知らないのはまずいよ」と先生に言われたり。この曲を弾くなら他の曲も聞いておこうかな、とかです。

N さん　勉強以外でも、映画で聴いたり、ドラマやアニメとかで聴いて調べたりとかはします。最近だと蜜蜂と遠雷のプロコフィエフ作曲の『ピアノ協奏曲第 3 番』は映画で演奏を聴いてハマって youtube で何度も聴きました。

Q8 聴いたことのない曲を聴くとき、どこに着目して聴きますか？

Nさん　直感で聴く。でも勉強の場合なら楽譜を見ながら聴いて、音楽の方向性に着目する。場合によっては数人の違うピアニストの演奏を聴くこともあります。

Kさん　単純に何も考えないで聴く！勉強のためなら、いろんな演奏家の人の弾き方の違いや、ニュアンスの出し方に着目して見ます。

筆者　勉強のためだと思っていても、もし聴いている途中で眠くなったり飽きてしまったらどうしますか？

Kさん　飽きたら聴くことはやめます！

Nさん　私も！飽きた状態で聴いていても時間の無駄だし嫌いと思って聴いても意味がないので。

Q9 クラシック音楽を自身の演奏の勉強という目的以外で聴く事はありますか？

Nさん　ない。音楽家の場合は逆に寝る前とかリラックスしたい時に音楽を聴かない方が良いという話を聞いたことがあります、音を追ってしまうから。

筆者　聴音している感覚になりますよね

Nさん　そうそう、聴音！寝る前とかに聴いたら頭がクリアになってしまって余計に目が覚めてしまう。

Kさん　私もないかな。私が通ってる耳鼻科でブラームスとかが流れてる時があるんだけれど、そうすると本当にやめて欲しいなって思う。体調悪くていってるのに重い気持ちになるというか。

Q10 初心者がクラシック音楽を聴くとき、飽きずに楽しんで聴くためにはどこに着目して聴くことが良いと思いますか？

N さん　曲の構成や背景を伝えてから聴いてもらったらいいと思います。そして映画を観ているのと同じ感覚になったら楽しめるかも。この後どうなる？とか考えながら。主題のバリエーションを感じたり、最初の主題が後半に戻ってきたことを発見したり、提示部と再現部を見つけたり。

K さん　拍を数えたりとか、聴いている楽譜をネットで検索、ダウンロードして楽譜を追っていくとかかな？楽譜を読めないとしてもこんなに沢山の音を弾いてるんだ！と。

Q11 クラシック音楽初心者の方にぜひ聴いて欲しい！と思う曲はありますか？

N さん　ショパンの優雅さとベートーヴェンのソナタ。

K さん　ショパンのプレリュード、ワルツ、ノクターンかな。派手な曲ならリストとかいいかも、オクターブでジャカジャカ弾く感じ！初心者の方から見たら達人芸に見えるんじゃないかな？

N さん　超絶技巧だもんね！当時の人はサーカスを見る感覚でリストの演奏を見ていたし、現代の人でもこんなに指が動くの？とか迫力とか感じられるもんね。

Q12 演奏家として自身の演奏会で聴衆が聴きやすいようにどんな工夫をしていますか？（もし演奏会を開催したことがない場合は今後開催する際に考えていること）

Nさん　初心者の方向けのコンサートであれば、クラシック以外にもディズニーやジブリの曲を入れて、飽きないプログラムにするとか、トークを入れるとか、映像や他の楽器、絵画作品などとコラボするとか。

筆者　次回開催予定の演奏会でもそれは行う予定ですか？

Nさん　オンライン配信になるからできません。

筆者　オンライン配信で何か工夫することはありますか？

Nさん　1年間アーカイブに残す予定だけれど、チケットを購入してリアルタイムで演奏を聴いてくれた方と後から視聴する方との差別化を図るために、アーカイブは抜粋して残す予定くらいです。

Kさん　今後自分で演奏会を開くとしたら、プログラムノートを作ります。あとピアノだけでやるのは難しいのでゲストを呼ぶかな、歌とかヴァイオリンとか、アンサンブル。

Q13 自身が演演奏曲目を変えることによってクラシック音楽独特のとっつきにくさを軽減させることができると思いますか？

Nさん　思います。プログラムは親しみを持ってもらうようにすることが最優先。でも曲目よりもプログラムノートを工夫する方が大事だと思います。プログラムノートは冊子として聴衆の手元に配られ、開演前に読むから。でも巨匠だとクラシックファンしかこないので、プログラムノートも和音のことなど詳しい話になります。

筆者　既存のプログラムノートではクラシック音楽初心者には不親切だと思いますか？(ここの和音は長3度とか言っても初心者はわからない)

Nさん　クラシック音楽の初心者、新規のファンの人に合わせると演奏会の質が落ちると思う。ある程度の水準は超えておいて、曲のこういうところに着目して演奏を聴いて欲しい。みたいなのをプログラムノートに書いて欲しいかなと思います。

Kさん　曲目に関しては一流の人は新規の聴衆のことを考えずに、我が道を進むべきだと思う。そうじゃない人（まだ有名ではない人）は考えるべきなのかも。本当にみんなが知っている曲を入れて、マイナーな曲とか飽きるような曲を避けるとか。

Nさん　ある程度の観客の水準は大事だと思う。でも噛み砕きすぎてもダメ。自分が主催側だとしたら、お客さんの層に合わせるし、プログラムノートも分析っぽくは書かない。その作曲家の人生とかが一番聴いてもらう上で大事。

Kさん　私だったら曲のイメージを書くかも！

Nさん　私は逆に書かないかな。曲のイメージは聴衆の想像に任せる！だけどプログラムノートに自分（演奏者）はこう思う、こう考えて演奏してるって書くのは新鮮でいいかもしれない。

筆者　自分で演奏をする時に曲目の工夫はしますか？

Nさん　初心者向け、という曲で選ぶというよりは時代で選ぶかな。古典なら古典、ショパンならショパンという風に。

筆者　来年行う予定の演奏会ではどのように曲目を決めましたか？

Nさん　みんなでどういう曲目にするか話し合いして曲を決めた。自分の弾きたい曲をそれぞれ決めて、一番最初と最後はきちんとした曲を演奏しようという感じ。他の人の演奏会では一部と二部を分けて二部は親しみやすい曲（ディズニーやジブリ）を演奏する人とかもいる。

Q14 演奏会で自身が演奏するとき、聴衆にはどこに着目をして演奏を聴いてもらいたいですか？

N さん　映画を見る時を一緒で主人公の気持ちになって一緒に泣いたりワクワクしたりして欲しい。映画を見に行く時は一種の現実逃避だと思うので、演奏会でも日常に離れた時を感じて、何かを持って帰って欲しいと思います。実際に自分自身も高校生の時にベートーヴェンのコンサートを聴きに行って、ジェットコースターに乗ってる気分になったことがある！ドキドキして肘掛につかまった、そういう引き込まれる経験を知っている人は演奏会で楽しめるかもしれない。

筆者　多分映画と音楽で違う部分は聴衆みんながピアノを演奏した経験があるわけではないってところだと思います。だからそこまで感情移入できないのではないだろうか？

N さん　でも演奏会会場で泣いてる人もいたりするし、音楽にはそういうパワーがあると思います。

K さん　初心者が聴きにくるなら演奏される曲がわからないと思うので、こんなドレス着てるんだ！という部分に着目してもいいし、最悪寝ていても良い。でもこんな小さい音も出るし大きい音も出るんだ！とか速いパッセージをどうやって弾いてるか？など気になって欲しいです。初心者の人でなければ曲によって表情の違いや音色の違いを楽しんで欲しいかな。

Q15 聴衆には演奏会でどのような体験をして、どんな状態や気持ちになって帰ってもらいたいですか？

N さん　これもまた映画を見た後のようになって欲しい！感動した！とか久々こんな泣いた、エネルギーをもらえた、癒された、現実逃避をしたし、明日から頑張ろう！など。

筆者　どういう言葉をもらったら嬉しいですか？

N さん　私もあの曲弾きたいー！とか、泣けたって言われるのが一番嬉しいかな！

Kさん　私は逆に一番嫌なのはなんとも思わなかった、興味ない、思い出せないということで、感情を持ってくれればいいかな。私の好みじゃなかった、という感想は全然いいんだけれど、寝言言っちゃうレベルで寝てたとか言われると辛いかな。でもベーゼンドルファーで演奏をした時、友達の彼氏が聴きにきて、「途中で寝ちゃいました」と言われて逆に寝心地いい演奏だったんだな、という都合良い解釈をしました。初心者の方はとりあえず最初だけ聴いて寝てくれてもいいかも。

Nさん　私の先生は演奏会の最初で「僕の演奏で寝ていいです。」という冗談を言ったりしています。寝たということ込みで何か感じてくれれば良いかも。

Kさん　よく、あんまりたくさん練習したと思われる演奏は良くない。というし、安心して眠れるくらいすごい余裕で弾いてる！と思われるほうがましかなと思う。

Nさん　頑張ってると感じ取れるとこっちも緊張するし手汗かくよね。でも難しいパッセージを軽く弾いてるように見せるのは難しい。

Q16 規模の大きくない会場での演奏会の場合、観客の様子、客席の雰囲気によって、演奏曲目（曲目を事前に公開していない場合）あるいは演奏方法を調整することはありますか？

Nさん　あります。マスト。

Kさん　大ホールだと響くような音を考えます。

筆者　演奏会の会場が小さいからこの曲を演奏することはやめておこう、など会場によって演奏曲目自体を変えることはありますか？

Nさん　ホールで曲を選ばないようにするのはないです。弾き方しか変えないかな、弾き方はリハーサルでコントロールする。でも高音が出にくいピアノがあったりするし、その場にあるピアノに合わせなきゃいけないのは難しいね。だから巨匠は自分のピアノを持っていくんだろうね。

5.1.5 演奏会に関するインタビューの考察

クラシック音楽の演奏者はクラシック音楽初心者を対象としてコンサートを開く場合、クラシック音楽を聴衆が聴きやすように、コンサートでクラシック音楽だけではなく、ディズニーなどの曲を演奏したり、プログラムノートを詳しく書くなどの工夫を試みている。だがそれは若い演奏者に見られる傾向なのかもしれない。

なぜなら、巨匠になればなるほどクラシック音楽初心者に向けてコンサートを開かなくとも既存ファンやネームバリューで人が集まる。大多数の人が既存ファンとなれば当然プログラムノートも既存クラシックファン向けで、クラシック音楽初心者にとって読みにくい (家の基本情報が書いておらず、演奏者による楽曲分析など）文章になる。

そして演奏者はコンサートで演奏される曲目が自分の知らない楽曲だとしても巨匠が演奏するなど、誰が演奏するかによってコンサートに行くかどうかを決めるというが、それはクラシック音楽初心者も同様だと考える。テレビで見たことがある、ネットで有名だから等の理由でクラシック音楽初心者がクラシックコンサートデビューとして訪れる人は多いはずだ。そうしてコンサートに訪れた際、クラシック音楽初心者は小難しいプログラムノートと、クラシックコンサート独特の敷居が高い雰囲気に圧倒され、苦手意識が生まれてしまい、次に他の演奏者の演奏を聴きに行こうという気持ちが消失してしまうのではないかということが考えられた。

そこでクラシック音楽初心者に演奏を楽しんで聴いてもらうためには巨匠こそプログラムノートを丁寧に書き、若い演奏者はクラシック音楽初心者が聴きやすい曲目をプログラムに加え、演奏会を開くと新規のファン獲得見込みがありそうだ。しかし演奏者たちにも得意な作品とそうでない作品もあり、またあまりに曲目やプログラムノートをクラシック音楽初心者に合わせると、演奏会の質が下がるのではないかという懸念もあるようだ。

演奏会の曲目に関しては、現段階では演奏者は自身が演奏する際は曲目そのものを”初心者向け”などで選ぶことはせず、作品の時代（古典派なら古典派で統一）で選び、曲の演奏順番は古い作品から新しい作品に、というように時代順で組み

立てており、最後は派手な曲としているが、演奏する曲目はあくまで自分の演奏したい曲や得意な曲である。作曲者の組み合わせの相性も考慮して決める場合もあるようだ。

第 6 章
考　　察

6.1. クラシック音楽初心者と演奏者のすれ違い

プレイリストの曲目の中で最も演奏者とクラシック音楽初心者との意見の相違が生まれた曲がシューマンのピアノソナタ 2 番第 1 楽章、ショパンのスケルツォ第 2 番、フォーレの 3 つの無言歌作品 17 番第 3 番の 3 曲だ。
まずシューマンのピアノソナタ 2 番第 1 楽章に対する意見から比べると、クラシック音楽初心者がプレイリストの中で一番退屈して眠くなると答えた人数が最も多いのがこの曲だ。また、途中で飽きた人数も一番多い。そしてプレイリストの中で最も聴いたことがある人が少ない曲だ。感想も悲しみや怒りを感じて疲れてしまったり曲が長いと感じている人が多い様子が見受けられる。
しかし演奏者に行ったインタビューでは演奏映えする曲で、覚えやすいメロディーで華やか、さらに知っている人が多そうだというイメージも持っていて、両者の意見の違いは非常に顕著であった。
続いてショパンのスケルツォ第 2 番に対する意見を比べると、クラシック音楽初心者は先ほど述べたシューマンのピアノソナタ 2 番第 1 楽章と同様に飽きた人数が最も多く、一番退屈して眠くなると感じた曲として選ばれている数もシューマンに続いて 2 番目に多い。シューマンと違うところがあるとすればそれは聴いたことがある人数だ。シューマンよりも聴いたことがあると答えた人数が多いにも関わらず、すごい速さで飽きてしまった、単調であるなどの感想を持つ人が多かった。
しかし演奏者側はショパンを必須で演奏したいと考えており、さらにこの曲は有名曲だと考えていた。

有名曲と感じている曲も両者で違うようだ。
最後にフォーレの 3 つの無言歌作品 17 番第 3 番に対する意見は、クラシック音楽初心者は一番聴きやすいと感じた曲として選んでいる人が最も多く、安心するというような感想も見受けられた、長い曲であれば飽きてしまうが、短い曲のため、ちょうどよく聴くことができるようだ。興味が持続して聴きやすいわけではないが、それが逆に気を張らずに聴けることが良く作用したようだ。
しかし演奏者側は、ゆったりしている曲なので眠くなると感じる人が多いのではないかと想定し、超絶技巧的な曲の方がクラシック音楽初心者の人は楽しめるのではないかと考えている。上記の 3 曲に見られるようなすれ違いが生じている事、両者が有名だと思っている曲にズレがあることがわかった。

初心者	曲名	演奏者
・退屈して眠くなる人の多さ1位 ・途中で飽きた人の多さ１位 ・聴いた事がある人の多さ最下位	シューマン作曲 ピアノソナタ2番 第1楽章	・覚えやすいメロディーで華やか。 ・演奏映えもする。 ・聴いた事がある人が多そう。
・退屈して眠くなる人の多さ2位 ・途中で飽きた人の多さ1位	ショパン作曲 スケルツォ2番	・ショパンは必須で演奏したい。 ・この曲は有名曲である
・聴きやすいと感じる人の多さ1位	フォーレ作曲 3つの無言歌 作品17番第3番	・ゆったりした曲なので 眠くなると感じる人が多いのでは

図 6.1　プレイリスト ver1 から見る両者のすれ違いまとめ

以上のことから演奏者はクラシック音楽初心者向きだと考えて演奏している曲がクラシック音楽初心者にとってはそうではなく聴きづらい曲である場合が多い事がわかった。

第 7 章
結　　論

7.1. 予備実験とデザインの成果

7.1.1 予備実験

クラシック音楽初心者は予習として 1,2 回聴いたことがある曲について、聴いたことがあるという安心感からメロディーがインプットされ、今後も聴き続けたいと感じる人が多い傾向にあるということがわかり、次に何が起こるのかわからないドキドキハラハラした感覚より、安心して聴くことができる曲をデザインで作成するクラシック音楽初心者向けプレイリストに加えることとした。
また、クラシック音楽初心者は演奏を聴く際に手元に着目して演奏を聴く人はあまり居ない傾向にあったことから指の動きなどの技巧的な面は演奏を聴く上であまり重要視していないこと、クラシック音楽初心者にとってオンラインコンサートは敷居が低く参加しやすい傾向があり、web 上でのアプローチは効果的であることがわかった。

7.1.2 プレイリストとインタビュー

予備実験の結果からクラシック音楽初心者は聴いたことがある曲であれば安心して聴くことができる傾向にあることがわかったが、実際のコンサートでは予習をしてもらうことはできないので、誰もが知っているような有名曲や、音楽の授業で習ったであろう作曲家の曲をプレイリストに加えることで、予習と同じ効果が現れることを見込んだ。そこで有名曲と考えてベートーヴェンのピアノソナタ月光第 3 楽章をプレイリストに加えたが、聴いたことがある人はプレイリスト内

で一番多いものの、半数以上の人は聴いたことがなく、誰もが知っている曲という分類で曲目を選ぶことは難しいとわかった。しかし、同曲は興味を持って聴き続けられる、ワクワクした曲として一番選ばれていることから何か関連性がありそうだということはわかったが、それが何なのかは明らかにならなかった。
また、プレイリストの中でも一番聴きやすい曲として最も選ばれているのはモーツァルトのロンド kv485 とフォーレの 3 つの無言歌作品 17 番第 3 番で、逆に一番退屈して眠くなる曲として選ばれているのはシューマンのピアノソナタ 2 番第 1 楽章だった。
今回のプレイリストを視聴してもらう形式での実験では、一貫して同じ演奏者が演奏しているわけではないし、家で 1 人の状態で視聴するため、誰かとコンサートに行ってその帰り道にご飯を食べて帰るなどコンサートに付随する楽しみは考慮されていない、したがって実際の生のコンサートでは曲に対してもっと違った印象や感想を抱くかもしれないが、チェックリストの感想、飽きた時間の分数、人数、一番興味を持って聴き続けられた、聴いていてワクワクした曲、一番聴きやすいと感じた曲、一番退屈して眠くなると感じた曲などの点を全て分析し、傾向を探った結果、演奏分数が短い曲（テンポの緩急や曲調に関わらず 3 分以内)、バロック時代の曲、すっきり簡潔な曲、穏やかなパートと激しいパートがはっきりわかれすぎていない曲、テンポが一定な曲、緩やかに強弱がついている曲、明るい曲、右手が常にメロディーを歌い左手が伴奏形の曲がクラシック音楽初心者が聴きやすいと感じている傾向があるということがわかった。
一方で、演奏者へ行ったインタビューでは演奏者はコンサートで演奏する曲目自体は自身の得意な曲、演奏したい曲を選ぶため、ターゲットがクラシック音楽初心者だからといって変えるわけではないけれど、プログラムノートを初心者向けにわかりやすく書いたり、クラシック音楽以外の曲を入れるなどの工夫をしているようだ。インタビューの内容を考慮すると、今回インタビューを行った演奏者 2 人がクラシック音楽の初心者向けだと考えている曲の傾向は超絶技巧的で達人芸のような部分が入っている曲、印象に残るメロディーがあり華やかな曲、テンポが速い曲であった。
以上の結果から、演奏者がクラシック音楽初心者向けだと思っている曲は、実は

初心者向けではないことがわかった。

7.2. 今後の展望と課題

本研究では、数少ない作曲家と曲のみを用いてクラシック音楽初心者に共通する傾向を探ったが、今回プレイリストを視聴し、次回また別のプレイリストを視聴してくれると答えた人に、初心者の共通項として導き出された特徴のある曲でプレイリストを作成し、様々な時代の作曲家の作品からクラシック音楽初心者が聴きやすいと感じる曲目の傾向を探していくことがクラシック音楽の新規ファンを増やすことにつながるだろう。
しかし一方で演奏者とクラシック音楽初心者で曲に対する意識の差があることはわかった。演奏者も自身の演奏のしたい曲や、得意な曲があるためクラシック音楽の初心者に全て合わせた曲目でコンサートを行うことはできない、そこで演奏者はプログラムの中に 1 曲はクラシック音楽の初心者が聴きやすいと感じるような曲を入れるなど、工夫をしていく必要があるだろう。

謝　　辞

本研究の指導教員であり、幅広い知見から的確な指導と暖かい励ましやご指摘をしていただきました慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科の石戸奈々子教授に心から感謝いたします。

研究の方向性について様々な助言や指導をいただきました慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科の加藤朗教授に心から感謝いたします。

研究指導や論文執筆など数多くの助言を賜りました慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科の山岡潤一専任講師に心から感謝いたします。

また、本研究で実施したいろいろな実験にご参加頂いた多くの方々、そのために演奏をして頂いたピアニストのお二人、また、インタビューに応じて頂いた音楽家の方々に深く感謝します。

本研究の実施に当たって、サポートしていただいた家族に改めて感謝いたします。

参 考 文 献

[1] クラシック音楽のイメージ. https://milltalk.jp/boards/10706.

[2] 2011〜2016 年の動員数から考える、クラシックコンサートのこれから | asunone. https://asunone.com/possibility/.

[3] 西島央. 誰がクラシックコンサートに行くのか：東京・新潟・鹿児島のコンサート会場におけるアンケート調査をもとに. 東京大学大学院教育学研究科紀要, Vol. 43, pp. 57–76, mar 2004.

[4] オーケストラのマーケティング・リサーチと芸術団体のための戦略プラン構築、およびオーケストラのためのマーケティング・ハンドブック制作事業. http://tokyosymphony.jp/common/tso/images/pdf/report2016.pdf.

[5] 倫子長谷川. レクチャーコンサ-トとその「語り」についての一考察–アートマネジメントの実践から. 技術マネジメント研究, No. 9, pp. 53–61, mar 2010. URL: https://ci.nii.ac.jp/naid/110009587529/.

[6] Classicajapan. https://www.classica-jp.com/event/16570/.

[7] 一色優孝. 単純接触効果を応用した earcon によるクラシック音楽への好意度向上手段に関する研究. 2017.

[8] 塩津洋子, 藤本葉子. クラシック演奏会での選曲傾向： 1984 年と 2004 年の比較： 中間報告. 音楽研究： 大阪音楽大学音楽博物館年報, Vol. 23, , 2008. URL: http://id.ndl.go.jp/digimeta/10313742.

[9] 木下由香. 演奏会のプログラム構成に関する一考察: 4 つの教育的アプローチによる. 2013.

[10] 赤松林太朗演奏　ソナタ k9l413. https://youtu.be/H5v47-OE0ak.

[11] Florian mitrea 演奏　ロンド kv485. https://youtu.be/TTOjvE1l-Ds.

[12] Ian gindes 演奏　ピアノソナタ 2 番第 1 楽章. https://youtu.be/z28wyqvvCN8.

[13] Nikolai lvovich lugansky 演奏　楽興の時　第 4 番. https://youtu.be/WhLDse5R8dQ.

[14] Krystian zimerman 演奏　スケルツォ第 2 番. https://youtu.be/S94Nh-bSomo.

[15] Theo fouchenneret 演奏　3 つの無言歌作品 17 番第 3 番. https://youtu.be/DlAGSsW12GA.

[16] 辻井伸行演奏　ピアノソナタ 14 番月光第 3 楽章. https://youtu.be/nDXY8iPDriI.

[17] ピティナ・ピアノ曲辞典より　d. スカルラッティ作曲　ソナタ k9 l413. https://enc.piano.or.jp/musics/1644.

[18] ピティナ・ピアノ曲辞典より　a. モーツァルト作曲　ロンド　kv485. https://enc.piano.or.jp/musics/304.

[19] ピティナ・ピアノ曲辞典より　r. シューマン作曲　ピアノソナタ 2 番第 1 楽章. https://enc.piano.or.jp/musics/386.

[20] ピティナ・ピアノ曲辞典より　s. ラフマニノフ作曲　楽興の時　第 4 番. https://enc.piano.or.jp/musics/2400.

[21] ピティナ・ピアノ曲辞典より　f. ショパン作曲　スケルツォ　第 2 番. https://enc.piano.or.jp/musics/467.

[22] ピティナ・ピアノ曲辞典より　g. フォーレ作曲　3 つの無言歌集　作品 17 番第 3 番. https://enc.piano.or.jp/musics/877.

[23] Yamaha make waves より l. ベートーヴェン作曲 ピアノソナタ 14 番 月光 第 3 楽章. https://jp.yamaha.com/sp/myujin/33306.html.

[24] 中田雄一朗演奏 段階的な 6 つのソナチネ第 4 番第 1 楽章. https://youtu.be/HKQw1yR6TOU.

[25] 塩崎基央演奏 フランス組曲 5 番. https://youtu.be/iGVT43XC_S4.

[26] 中川京子演奏 ソナタ第 50 番第 1 楽章. https://youtu.be/HXcfKbE6CfY.

[27] Paul barton 演奏 ワルツ第 16 番. https://youtu.be/AWJqCEq4UWw.

[28] Maria martha argerichi 演奏 子供の情景より「見知らぬ国」. https://youtu.be/M1_Yjqj9xSY.

[29] 斎藤奏演奏 2 つの演奏会用練習曲より小人の踊り. https://youtu.be/reGxgSpBnOg.

[30] ピティナ・ピアノ曲辞典より m. クレメンティ作曲 段階的な 6 つのソナチネ第 4 番第 1 楽章. https://enc.piano.or.jp/musics/18311.

[31] ピティナ・ピアノ曲辞典より j.s バッハ作曲 フランス組曲 5 番. https://enc.piano.or.jp/musics/12638.

[32] M ボックスより f.j ハイドン作曲 ソナタ第 50 番第 1 楽章. http://music-box.co.jp/archives/12446.

[33] ピティナ・ピアノ曲辞典より f. ショパン作曲 ワルツ第 16 番. https://enc.piano.or.jp/musics/493.

[34] ピティナ・ピアノ曲辞典より r. シューマン作曲 子供の情景より「見知らぬ国」. https://enc.piano.or.jp/musics/65.

[35] ピティナ・ピアノ曲辞典より f. リスト作曲 2 つの演奏会用練習曲より小人の踊り. https://enc.piano.or.jp/musics/23812.

付　　録

A. Web Classic Concert パンフレット

B. プレイリスト　チェックリスト

1

注意事項

①YouTube liveで何か不具合が起き、演奏会が続行不可能となってしまった場合、あらかじめ録画してある限定公開のYoutube動画をご送信いたしますのでご視聴お願いいたします。

②演奏中のご退席は極力お控えください（途中に休憩時間を5分ほど設けております）

③随時感想・ご質問等コメント欄への書き込みをお待ちしております。
（ラグの関係上、ご質問いただいたことにその場で答えることは難しいため、終了後コメント欄で返信をいたします）

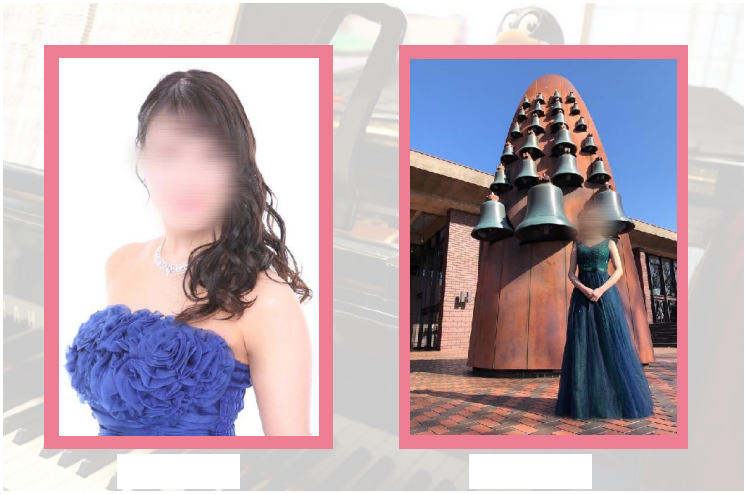
④音が割れていて聞く事が困難etcの問題がある際にはお手数をおかけしますが、大山までご連絡ください。

2

開催・司会者情報

3

演奏者情報



4

プログラム

チャイコフスキー　四季-12の性格的描写より5月、6月

ベートヴェン　ピアノソナタ第１７番　テンペストより第１楽章

*休憩（5分）

ラフマニノフ　幻想的小曲集よりエレジー

チャイコフスキー ドゥムカ-ロシアの農村風景-

5

作曲者情報

1840-1893 ロシア

ピョートル・チャイコフスキー

＃ロマン派

＃法務省

・有名曲

バレエ音楽　「白鳥の湖」
「くるみ割り人形」

交響曲第1番

6

四季-12の性格的描写から5月、6月　*1876*年作曲

？どんな曲？

・サンクトペテルブルクの月刊誌上で連載されていた作品で、12ヶ月に対応した12の作品からなっています。

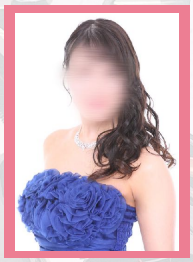
・各月に対応した詩が引用されています。

5月　なんて安らぎに満ちた夜だろう！
ありがとう、北のふるさと故郷よ！
氷に覆われた王国から
雪の降りしきる王国から
5月よ、君はなんて清々しく、
鮮やかに飛びたつのだろう！
ーフェート

6月　岸辺に出よう。
僕らの足に波はくちづけ、
秘めやかな愁いの星が
僕らの上に光るだろう。
ープレシシェーエフ

・管弦楽曲的な要素を兼ね備えている

7



外出が出来ない中でも音楽で季節を感じられればいいなと思い5月・6月を選びました。
5月（現在の暦で6月）は白夜の美しさを歌った作品です。
日差しを感じる穏やかな気持ちで演奏したいです。
6月は「舟唄」です。
湖畔でゆったりと過ごす時間と舟の揺れ動く流れをイメージして演奏します。

8

作曲者情報

ルートヴィッヒ・ヴァン・ベートーヴェン

＃ウィーン古典派
＃フリーランス
＃難聴

・有名曲

ピアノ曲　「エリーゼのために」
交響曲第5番　「運命」
交響曲第９番　「歓喜の歌」

1770-1827　ドイツ

Q.ドイツの3大Bと言われている作曲家を知っていますか？？

A.ベートーヴェン、ブラームス、バッハ

9

ピアノソナタ第17番　テンペスト　*1802*年作曲

？テンペストとは？

英語で嵐という意味です。

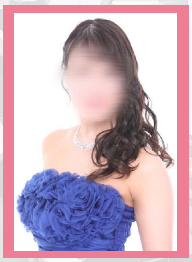
？テンペストの由来は？

弟子がベートーヴェンにこの曲について尋ねた際に、
「シェークスピアのテンペストを読め」と言ったと伝えられているため。

？ソナタ形式とは？

提示部→展開部→再現部
最初で提示されたメロディーが最後にまた提示される。

10



嵐のようなめまぐるしいテンポ、
強弱の変化が特徴で、
さっきまでの幻想的な作品から
現実の葛藤に引き戻されます。
感情の激しさと穏やかさの両立が
人間らしくこの曲の魅力だと
思います。

11

休憩

12

プログラム

チャイコフスキー　四季-12の性格的描写より5月、6月

ベートヴェン　ピアノソナタ第１７番　テンペストより第１楽章

*休憩

ラフマニノフ　　幻想的小曲集よりエレジー

チャイコフスキー ドゥムカ-ロシアの農村風景-

13

作曲者情報

1873-1943 ロシア

セルゲイ・ラフマニノフ

＃現代（20世紀）

＃ピアノのヴィルトゥオーゾ（超絶技巧）

有名曲

前奏曲嬰ハ短調op3-2　鐘

前奏曲ト短調op23-5

ピアノ協奏曲第2番

14

幻想的小曲集よりエレジー　1892年作曲

？エレジーとは？

英語で哀歌（あいか）という意味です。

？どんな曲？

・ラフマニノフがモスクワ音楽院ピアノ科を首席で卒業した翌年、モスクワ音楽院作曲科を卒業した年に作曲した曲。

・幻想的小品集はモスクワ音楽院の作曲での師である
　アントン・アレンスキーに献呈された。

15

エレジーはラフマニノフが19歳の時に作曲した、幻想的小曲集の中の1曲目です。
ラフマニノフといえば、荘厳なイメージをお持ちの方が多いかと思います。
学生時代に沢山苦労した彼が歌う哀歌とはどんなものか、胸を締め付けられる様な繊細さも感じていただけたら幸いです。

16

チャイコフスキー ドゥムカ-ロシアの農村風景-

？ドゥムカとは？

18世紀にポーランドで起こり、スラヴ諸国に広まった民謡の一種でゆったりとした悲哀を表す部分とテンポの速い情熱的な部分からなっている。対比が効果的な形式

背景

フランスのピアニスト・ピアノ教育者マルモンテルの依頼により作曲された。

17

ドゥムカはチャイコフスキー後期の作品で、この曲には
”ロシアの農村風景”という副題がつきます。
ドゥムカとはポーランドで起こり、スラブ諸国で広まった民謡の事で、この曲も哀歌と訳される事があるそうです。テーマを変奏しながら移り行く場面展開をお楽しみください。

18

ご視聴ありがとうございます。

視聴後のアンケートがございます、ご協力いただけると幸いです。

初めての試みで沢山のご迷惑をおかけしてしまい申し訳ございませんでした。

つきましては、もう一度見たい、という方に事前に手の動きなどを詳細に見ることができる編集済みの動画をお送りいたします。

ご希望の方はアンケートにあります私のメールアドレスか、lineまでご連絡ください。

参考文献　https://history-of-music.com/rachmaninov
https://www.ymm.co.jp/pianorg/detail/406
https://enc.piano.or.jp/musics/2398
https://enc.piano.or.jp/musics/95 ピティナ・ピアノ曲辞典
パブリックドメインQ著作権フリー画像素材集

19

【視聴中チェックリスト】
・視聴後アンケートとの紐付けを行うため氏名は必ずご記入ください。
・BGMとして使用するのではなく、集中して聴いてください。
・聴いている間に曲に飽きたら、飽きた時間をメモってください。
（ただし、最後まで飽きずに聴くことができたら飽きた時間のメモは必要ありません。）
・各自休憩したいと思った際は、お好きなタイミングで休憩をとってください。
（ただし、休憩を取る際は必ず下記の欄に書き込んでください。）
・マーク欄にプレイリストの中で一番聴きやすいと感じた曲に〇をつけてください。
・マーク欄にプレイリストの中で一番興味を持って聴き続けられた、聴いていてワクワクした曲に☆をつけてください。
・マーク欄にプレイリストの中で一番退屈して眠くなると感じた曲に×をつけてください。

氏名:

曲名	飽きた時間	感想（聴きやすさの観点から）	聴いた事の有無	マーク
(例) ベートーヴェン ワルトシュタイン 第１楽章	6'00	有名な曲で聴いたことがあったので聴きやすかった。 しかし途中から眠くなって飽きてしまった。	あり	
1:スカルラッティ ソナタk9				
2:モーツァルト ロンドkv485				
3:シューマン ピアノソナタ 2番　第１楽章				
4:ラフマニノフ 楽興の時　第4番				
5:ショパン スケルツォ　第2番				
6:フォーレ 3つの無言歌 作品17第3番				
7:ベートーヴェン ピアノソナタ14番 月光　第3楽章				

休憩（とっていない方は記入しなくて構いません）

例）1と2の間、6と7の間

ご回答いただいたデータは厳重に保管され統計的に処理されます。
また、個人のプライバシーの保護についても徹底します。
ご協力いただきましたデータに基づき修士論文を作成し、慶應義塾大学大学院へ提出する事を予定しております。研究目的以外には使用致しません。
視聴中チェックリストおよびアンケート調査への回答によって本研究への協力について同意したとみなさせていただきます。

ご不明点がございましたら下記の連絡先までお願いいたします。

慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科修士2年生
大山紗季
saki0112@kmd.keio.ac.jp